

SA 15030
Sack 26
ster 4

昭和十二年六月三日調

警察沿革史

在滿大使館警務部

国立公文書館	
分類	(2) 3
配架番号	3 A
	15
	1-4



昭和十二年六月二十日調

警察沿革史

在滿大使館
總務部

在滿日本帝國大使館

在滿大使館警務部(課)沿革誌

昭和七年

九月

末松警視 全權部署	十五日間島在勤中九月五日附在 滿特派全權隨員仰付ケラル外	任 務省警視末松吉次家族同伴着 任ス	警務課創 設	十六日奉天在滿特派全權事務所 内ニ在滿外務省警務課統制機關 トシテ警務課ヲ創設シ末松警視 警務課長ニ任命セラレ
--------------	---------------------------------	--------------------------	-----------	--

昭和七年

昭和七年

昭和七年

昭和七年

在滿日本帝國大使館

警察職員

當時ノ配置警察官左通(着任順)

課長

警視末松吉次

警部大森豊吉

通訳生 和田豊秋

警部 長村川清

込査 猶崎全藏

部長 山出嘉次郎

服裝

幹部ハ私服 部長以下ハ制服ナリ

廳舎及宿舎

全權部廳舎ハ在奉天總領事館

一部ヲ臨時充當シ警察課ハ全權

部中一課ヲ構成ス

宿舎ハ警視以下全員散宿料ハ支給

受ケ旅費位居ラス

在滿日本帝國大使館

創設
訓令

十日警務課創設ニ関シ内田外務大臣ヨリ受ケタル訓令電要尙左ノ通
 今般在滿全權ヲシテ在滿領事館事務ヲ統轄セシムコトトナリタル結果全權隨員中ヨリ領事館警察ヲ專任統轄並憲兵隊 関車ニ體警察側トシ連絡協調ニ當ル者ヲ配屬セシムルニ必要ヲ生シ特ニ其般警視ヲ專任シタリ
 同警視ハ全權ノ命ク年々々主席隨員ヲ扶ケテ在滿領事館固有ノ警察事務ヲ付帯時全般の指導ニ當ル外特ニ今般ノ全權任命ニ

依り従来ノ多頭政治ノ統一ヲ圖レタ
 ル趣向並滿洲國ノ治安回復ニ對シ
 我方ノ援助上軍警ニ共同動作ハ今ノ
 後益々必要トナレキ實情ニ鑑ミ我
 領事館並警察ヲシテ閩東軍ニ同意
 兵及閩東廳警察トノ間ニ完全ナル
 協調ト圓滿ナル關係ヲ保持セシメ
 警備警察上ニ一絲亂レサレハ協力共
 助ノ實ヲ舉クルニ努メラレ度本任務
 達成ニ関スル具體的方針ハ關係
 方面ト協議決定スルヲ西女ス

大森警部 二十日 外務省警部 大森 豊吉 九
 着 任 月七日 附在 吉口林 總領事 館 警部 察

在滿日本帝國大使館

署勤務在奉天總領事館警務署
兼勤務被命單身着任也

十月

小本部長 七日海龍分館込直部長山出嘉男
臨時勤務 八全權部警務事務補助為臨時

勤務被命

和田通譯 十七日上海在勤警部補和田豊秋
生着任 八九月二十九日附外務通譯生被任

奉天在勤全權部勤務被命奉
天(着任)

長谷川警 二十二日局子街警署署長警部部長
部着任 谷川清 八月三十日附在吉林總領

事館警署署勤務在奉天總領事

館警司兼勤ヲ被命 單身着
任ス

猶請込查二十四日同島警署署長勤務込查
着 任 此 金 藏 八 十 月 四 日 附 在 吉 林 總 領

事 館 警 司 兼 勤 務 在 奉 天 總 領 事
館 警 署 署 長 兼 勤 之 命 セ ラ シ 本 日 着 任
ス

十一月

都 市 名 一 曰 苗 來 呼 稱 シ 来 リ タ ン 長 春 八 本 日
稱 改 稱 ヲ リ 新 京 ト 改 稱 セ ラ レ タ リ



全權部新 京=移轉	一日全權部ハ奉天ヨリ新京ニ移轉ス
長谷川警 部	五日長谷川警部ハ十一月一日附左ノ部ヲ受テ
	外務省警部 長谷川 清 在新京總領事館警部兼務ヲ命ス
	在奉天總領事館警部兼務ヲ免ス
大森警部 部	五日大森警部ハ十一月一日附左ノ部ヲ受テ



外務省警部大森豊吉

在新京總領事館警部兼勤

ヲ命ス

在奉天總領事館警部兼勤

ヲ免ス

和通通訳五日和通通訳廿八日十一月一日附左ノ卷

生辞令令通訳知ヲ受ノ

外務通訳生和通豊秋

新京在勤ノ命ス

猶崎達查五日猶崎達查八十一月一日附左ノ卷

辞令令ヲ受ノ



外務省有込查 猶添全 廿藏

在新京總領事館警察署兼勤ヲ

命ス

在奉天總領事館警察署兼勤ヲ

免ス

山出部長五日上出部長八月一日附左ノ奉令
許令ヲ受テ

外務省有込部長 山出嘉右衛門

在吉林總領事館警察署兼勤ヲ

命ス

在新京總領事館警察署兼勤ヲ

命ス



石川达查	十五日 間島警察部勤務中 达查石川 外一名 義雄 今石田義雄 兩名ハ十一月一日附 在吉林總領事館警察司兼勤務在 新京總領事館警察司兼勤務被 命單身着任ス
末松謙長	十一月二十日ヨリ三日間ニ亙リ警察課 吉林警察長末松吉次ハ吉林ニ出張同地警察 事務打合 察機関事務打合ニ任シタリ
全權部宿直内規	十一月二十三日 全權部宿直内規左記 通定ノル十一月二十四日ヨリ之ヲ実施 ス

左記

第一條

日曜祝祭日其他休日及退廳後
於之廳舍内外取締為宿直
ク置ク

警務課勤務込査及守衛ハ輪番ニ
宿直ニ服務スルナラス

宿直勤務割ハ毎週月曜日監督
者之ヲ指定スルナラス

第二條

總務課長以下宿直監督者ヲ置
ク宿直監督者ハ會計係主任及
警務課勤務判任官ヲ以テ之ニ充ツ

<p>一箇月交代ニ服務スルモノス</p>	<p>宿直監督ハ宿直者ノ勤務ヲ指 定シ其監督ヲ及ニ宿直者ノ報告 ヲ受ケ必要ナル措置ヲ為スモノス</p>	<p>第三條</p>	<p>宿直者ノ服務時間ハ左ノ通リトス 一 平日ハ午後四時ヨリ翌日午前九 時迄トス</p>	<p>二 土曜日及午後休息日ノ午後四時 迄ハ守衛ニ於テ服務スルモノトス</p>	<p>三 日曜 祝祭日 其他休日ハ午 前九時ヨリ午後四時迄及午後 四時ヨリ翌日午前九時迄ニ 二回ニ</p>
----------------------	---	------------	--	---	---



交代スルモトス

四. 交代時ニ至ルモ上番者ニ引継後ニ
アササレハ廳舎ヲ離ルルコトヲ得サ
ルモトス

第四條

宿直ノ任務左ノ如シ

一 退廳直後及時ニ廳舎内外ヲ
達視シ火災盜難豫防其他
ニ付必要ナル處ヲ為スヘシ

二 夜間就寢直前及起床直後
必ス一回以上廳舎内外ヲ達視ス
ヘシ

三 宿直中異狀ヲ認メタルトキハ直ニ



<p>四、 監督者及歩兵第四聯隊通商 特務隊並ニ直轄機關係者ニ通報 スヘシ</p>	<p>五、 來訪者ノ住所氏名及電話受 信ノ要旨ハ翌日報告スヘシ 但シ急ヲ要スルモノハ直ニ 關係者ニ 取継クヘシ</p>	<p>六、 給仕小使ニ廳舎内外及各室 掃除ヲ監督スヘシ</p>	<p>宿直中ハ廳舎外ヲ離ルルコトヲ得ル 但シ已ニ得サハ事情ニ依リ代人 (他ノ宿直者ニ限リ)ヲ定メ監督者 ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限リヲアラス</p>
--	--	---	---



第五條

宿直者ハ宿直日誌ヲ備ヘ左ノ事項
ヲ記載シ毎朝監督者ニ提出スル

一 宿直者ノ氏名

二 宿直中ノ取扱事項

三 上番者ハ申送ノ事項

四 廳舎内外ヲ巡視シタル時刻乃異
狀ノ有無

五 其他必要ナル事項

第六條

宿直者ニハ一回ニ付金五拾錢ノ宿

直手当ヲ給ス

宿直手当ハ毎月三日迄ニ監督者



ヲ經テ前分ヲ請明スヘシ

十二月

末松警視 一日末松警視ハ十一月三十日附左
辭令ノ發令ヲ受ク

外務省警視 末松吉次

吉林在勤ヲ命ス

新京ハ出張ヲ命ス

末松警視 二日十二月二日附末松警視及長谷
外務省 川邊部ハ左ノ通り憲兵隊司令部
兵隊司令 奉務ヲ編託セラレタリ

初事務
嘱託

外務省警視

末松吉次

外務省警部 長谷川 清

関東軍兵隊司令 初事務嘱託

末松謙次

十二月二十一日 警務課長末松吉次

北河野警部
事務打合

ハ長谷川警部 帶同 哈商共員ニ出
張ニ御下賜品奉送シ 兼 不同地

警部署 署下事務打合ニ任シ
一月二十一日 歸任セリ

昭和八年
一月

昭和八年

自動車配給	十三日警務課用トシク乗用自動車 「三二年型エセックス」壹台本省ヨリ保 管轉換配給ヲ受ク
末松警視	二十四日末松警視ハ一月二十三日附左ノ 辭令發令ヲ受ク
任外務理事官	外務省警視 末松吉次
兼任外務省警視	朝鮮總督府道 警視(高等官三等一級)亞細亞局第二 課勤務並滿洲國ニ出張ス命ス
吉林在勤	命ス

末松理事 二十五日 末松理事官ニ對シテ左記發令
官昇級ヲ受ク

一月二十三日附
高等官三等外務理事官
賜一級俸兼外務省達查 末松吉口次

石川達查 二十七日 石川達查外三名ニ對シテ左ノ如ク
外名昇給發令ヲ受ク

十二月三十一日附

給月俸四三圓外務省達查 石川義雄
給月俸三八圓外務省達查 石田義雄
給月俸三五圓外務省達查 猶崎全藏

二月

和田通訳 生辭令々	一日 和田通譯生ニ對シ左ノ發令ヲ受 一月二十六日附 外務通譯生 和田豊 秋 兼任外務省警部 在吉林總領事館警部署勤務ヲ命ス
漆山込查 着 任	七日 吉林警部署勤務中ノ込查漆山外 次ハ二月三日附在新京總領事館警部 署署長兼務ヲ命セリ本日着任セリ
執務内規 制定	十日 在滿帝國大使館執務内規制定セ リタルヲ其中警務課ニ屬スル介拔萃

シタル處左ノ通

第三條

大使館ニ總務課 政務課 通商課
清教課及警務課ノ五課ヲ置ク

第九條

警務課ハ左ノ事務ヲ處理ス

一 警署事務ヲ付在滿領事館ノ指
揮及監督ニ關スル事項

二 在滿他警務機關トノ聯絡ニ關スル
事項

本松理事二十日外務理事官兼外務省警視廳
官辭令 鮮總督府道警視廳本松吉次ハ二月

十四日附免兼朝鮮總督府道警視
ノ發令ヲ受ク

四月

小出部長 二十五日三月三十一日附左令通リ語學
外名語 高支給ノ發令ヲ受ク

學手前 參等 (朝鮮語) 込查石川我雄
五等 (露 語) 込查部長 込查名雄

五月

小出部長 八日込查部長 込查名雄 込查令長 石川健
石精勤加 治ノ函名ハ三月三十一日附精勤加俸三圓
俸給與 給與ノ發令ヲ受ク

石川達查 三精勸諭 書授與	八日達查石川義雄三月三十一日附精 勸諭書日授與發令受夕
石川達查 外名算給	七月 二十日石川達查外名ニ對シ左ニ通 給發令通知受夕
	六月三十日附 給月俸四四圓 外務省達查石川義雄
	給月俸三九圓 外務省達查石田義雄
	給月俸三六圓 外務省達查 猶崎金藏
九月	

在滿日本帝國大使館



長谷川警部 十五日警部部長谷川清河八月九日附叙
叙叙勲 勲八等授瑞寶章一發令受之

杉村警部 十九日上海警署署勤務中警部杉

着 任 村政傳八月三日附在吉林總領

事館警署署勤務在新京總領事館
警署署勤務之被命 本日着任不

末松警長 九月二十九日警務課長末松吉次ハ警署

警察事務 事務打合之為旅順出張之十月一
打合 日歸任也

十月

末松課長 十月十一日警務課長末松理事官間

出張 張島三出張の同地警務署署長會見儀に列

席尚議打合に任に十月十七日歸任

セリ

井上書記 十四日九月二十日附滿洲國在勤

官兼任 被命タル大使館書記官井上益大郎ハ

本日着任警務部第二課に勤務セリ

十一月

石川込查九日ヨリ込查石川義雄ハ患痛ニテ之日間

休 暇休暇靜養十一日出勤ス

末松課長	十一月十五日警務課長末松吉次ハ哈
出張	南着ニ於ケル北滿全警察署長會議
	ニ列席為同地ニ出張ニ日間ニ巨ノ協議
	打合ニ任シ十一月十八日歸任セリ
石川込査	二十一日ヨリ込査石川義雄ハ重傷為ニ
休暇	日間休暇療養二十三日出勤セリ
	十二月
石川込査	二日込査石川義雄ハ十一月三十日附
込査部長	込査部長任命ノ發令ヲ受ク
任命	

漆山汰查 四日 汰查 漆山 外次 八十二月 四日 附依
逐職 賴汰查 免之 現地 逐職 也

福島警部 二十一日 間島警部 察果 勤務 中 外務省

同 任 警部 福島 保家 十一月 三十日 附在

吉林總領事館 警部 察果 勤務 在 新 京

總領事館 警部 察果 勤務 兼 勤 之 被 命 本 日

同 任 也

大森警部 二十三日 外務省 警部 大森 豊吉 八月 月

轉勤 三十日 附在 吉島 總領事館 警部 察果 勤

勤務 之 命 也 本 日 出 發 赴 任 也

松村次香 二十三日哈爾濱警察署署長勸務中次(未)

署 任 松村晴原 八十二月十四日附在吉林總

領事館警察署署長勸務 在新京總領

事館警察署署長勸務被命 本日署任

ス

警察部構 十二月二十七日 二機察第五一三編ヲ以
成要員更 外務大臣ヲ 大使館警察部構成

要員ニ關シ左記ニ通決定シタル旨訓

達ヲ受ケタリ

左記

在滿洲大使館警務部構成及女員表

官職	官名	人員	摘要
警務部長	外務省囑託	一	團東憲兵司令官より充つ
警務課長	外務理事官	一	
課員	外務書記生	二	
	外務省警部		
同右	外務省込査	四	
保安課長	外務省囑託	一	憲兵佐官より充つ
課員	同右	一	憲兵佐官又ハ尉官より充つ
同右	大使館書記官	一	
	外務書記生		
	外務通訳生	四	

同右	外務省法務	四	留分内警務課長ヲシテ兼任セム
衛生課長	外務理事官		留分内警務課員ヲ以テ兼任セム
課員			留分内警務課員ヲ以テ兼任セム
監察官	外務省嘱託	一	憲兵位官又ハ駐官ノニ充テ
同方	大使館理事官 又ハ外務省警備官	一	
計		二 一	

備考

以上却首ノ他左ノ備員ヲ配置ス

自動車運轉手	二人
タイピスト	二人
給仕	二人
嘱託雇員	二人

在滿日本帝國大使館

警務部規
程制定
平七日外務大臣訓令之ヲ以テ大使館警務
部規程左ノ如ク定ムルヲ

訓令第五號

駐滿帝國全權大使

在滿各帝國領事官

駐滿日本帝國大使館警務規程左ノ通リ
定ム

本訓令之實施期ニ付テハ電報之ヲ以テ指示ス

昭和八年十二月二十七日

外務大臣 廣田 弘毅

駐滿日本帝國大使館警務部規程

昭和八三三三 昭和九二二四

訓令 五 訓令一改正

第一條 駐滿全權大使ハ在滿領事館警務警察

事務ノ執行運用並統制ニ關シ在滿

領事官ヲ指揮監督シ兼テ帝國警

務機關ニ連絡ニ當ルモノトス

駐滿全權大使ハ在滿領事官ニ對シ

前項ノ事務ヲ處理スル為必要ナル訓

令ヲ發スルコトヲ得

第二條 前條ノ事務ヲ補助セシムル為駐滿

大使館ニ警務部ヲ置ク

第三條 警務部部長ヲ置ク

當分ノ内閣東憲兵隊司令官ニ警務

部長ノ事務ヲ囑託スルコトヲ得

警務部長ハ在滿全權大使ノ命ヲ

警務部事務ヲ統轄ス

警務部長ハ警察士緊急心ナル事項ニ
付在滿各領事館警察部長同
警察署長及同警察分署長ニ面
ニ直接通信ヲ交換シ併テ警察用
電信符號ヲ特設スルコトヲ得但シ
本項ニ依リ直接通信ヲ為シタルキハ
爾後各所屬公館長ニ報告スルコト
ヲ要ス

第四條 警務部ニ顧問ヲ置キ當分ノ内
關東廳警務局長ニ之ヲ囑託スルコト
ヲ得

第五條 警務部ニ左ノ職員ヲ置ク

定員八別之ヲ定ム

大使館書記官

大使館理事官

外務事務官

外務理事官

外務省警視

外務省嘱託(南東軍司令部附將校)

外務書記生

外務省警部

外務通譯生

外務省警部補

第六條 警務部 第一課 第二課 及 第

三課ヲ置ク

第七條 各課ニ課長ヲ置キ警務部	勤務高等官ヲ以テ之ニ充ツ當	分ニ内閣東軍司令部附將校	ニ第一課長事務ヲ囑託スルコト	ヲ得	課長ハ上司ノ命ヲ奉ケ所管ノ事	務ヲ掌理ス	課員ハ上司ノ命ヲ奉ケ課務ニ從	事ス	課長以下ニ事務分擔及配屬ハ駐	滿全權大使之ヲ定メ外務大臣ニ	報告スヘシ	其ノ異動ヲ生シタルトキ又同シ
-----------------	---------------	--------------	----------------	----	----------------	-------	----------------	----	----------------	----------------	-------	----------------

第八條 各課ノ所管事務ヲ左ノ如シ

第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 外務大臣ノ委任又ハ命令ニ係ル警

察ノ事務取扱ニ関スル事項

二 警官寮官ノ服務ニ関スル事項

三 銃器彈藥及警備用備品並設備ニ

関スル事項

四 警察事務達因及警察職員ノ教養

ニ関スル事項

五 都内他課ノ所管ニ属セサル警察事務

ニ関スル事項

第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 治安維持ニ関スル警察事務一頂

二 高竿警署之関スル事項
三 危險物取締ニ関スル事項
四 外事警署ニ関スル事項
五 警衛警備ニ関スル事項
六 出版警署ニ関スル事項
七 第三課所管ニ属スル保安警署 事務ニ関スル事項
第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 警署取締諸營業ニ関スル事項
二 消防水防其他ノ災害ニ関スル事項
三 交通警署ニ関スル事項
四 風俗警署ニ関スル事項
五 寄附金募集ニ関スル事項

六	普通刑事行政及犯罪即決ニ関スル 事項
七	衛生警察ニ関スル事項
八	防疫ニ関スル事項
九	阿片取締ニ関スル事項
九	條 警察部勤務ノ高等官若干 ヲシテ警察ニ関スル監察及巡視ヲ 行ハレムルコトヲ得
十	條 警察部ノ勤務運用ニ関スル 處務細則ハ外務大臣ノ承認ヲ經 テ駐滿全權大使之ヲ定ム
	(本規程ハ昭和九年二月二十一日附割令第 二號ヲ以テ昭和九年二月二十一日ヨリ施行)

昭和九年

一月

石川部長 九日 达查部長 石川義雄 八葉痛 爲
休 暇 休 暇 療養 (三日) 十一日 出勤セリ

石田达查 二十三日 石田达查 外三名ニ對シ 左ノ通
外三名 昇給 査令ヲ受テ
給 十二月三十一日 附

給月俸 四〇圓 外務省 达查 石田義雄
給月俸 三七圓 外務省 达查 猶崎金藏
給月俸 三六圓 外務省 达查 松村晴源

警務部 二十六日 豫三 假上廳舎 南隣ニ増築

昭和九年

在滿日本帝國大使館

移

轉 中ノ警務部ニ聽命會後工ニシタル以テ之ニ
移轉ニ事勢ハ從前ノ儘執務ス

警務部 二十六日大使館ニ於テ軍側憲兵隊側
構成會議 各係官及大使館事務理事官 井上

書記官會同ニ警務部構成ニ関
スル協議打合せヲ為ス

警務部 二十七日全權大使官邸ニ於テ南東軍
構成會議 參謀長主催ノ下ニ南東憲兵隊司令

官 南東憲警務局長及大使館參
事官會同ニ警務部構成ニ関スル協
議ヲ為シ參謀長ヨリ南東ニ聽倒ス

大使館警務部之構成ニ對シ協力スルヤ
 意向アル者ヲ速ニ同定言務首脳機構
 強化ヲ圖ル為憲兵隊司令官ニ警務
 部長事務ヲ囑託シ同定言務首脳機構
 局長ニ大使館警務部顧問ヲクシメ尚
 囑託憲兵將校乃南東ニ聽ヨリ外務
 省兼任トシテ職負ヲ配置シ警務部
 閣下全權大臣ヲ輔佐セシメ圓滑且ソ
 合理的ニ警務ヲ統制ノ旨ヲ持テタキ
 旨ヲ詔リ一同之ニ異議ナキヲ求ヘタルニ依
 リ右ニ對シ三長官ノ決裁ヲ得之ヲ現
 地率トシテ決定シ三長官ヨリ本件解
 決後ニ於テ一層相協力セラレ特ニ軍

在滿日本帝國大使館

分散配置接收後ニ於ケル滿洲國ノ
治安維持ニ努力スヘキ訓示ヲ為シ尋
テ三長官臨席ノ下ニ警務部ヲ構成
ス兩女編ヲ審議シ左ノ如ク協議ヲ終ル
左記

警務部第一課(從來警務課)第二
課(從來保安課)及第三課ヲ置ク
一 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 外務大臣ノ委任又ハ命令ニ係リ警
察人事取扱ニ関スル事項
二 警察官服裝ニ關スル事項
三 銃器彈藥及警察用物品並ニ設
備ニ關スル事項



四	警察事務 及警察官 養成
三	消防 事務
二	衛生 事務
一	警務 事務
六	警務 事務
五	警務 事務
四	警務 事務
三	警務 事務
二	警務 事務
一	警務 事務

在滿日本帝國大使館

一	警察取締 諸官業之関之事項
二	消防 水防 其他 災害之関之事項
三	交通 警察之関之事項
四	風俗 警察之関之事項
五	寄附金 募集之関之事項
六	普通 刑事 行政 及 犯罪 即決之関之事項
七	衛生 警察之関之事項
八	防護 之関之事項
九	阿片 取締 之関之事項
三	各課 之構成
一	第一課 課長 大使 館書記官 場記 將校
一	名 兼務 兼 任 南 東 之 應 警 務 一 名
右	外 書記 生 又 外 務 省 警 務 二 名

在滿日本帝國大使館

同込者三名ヲ附屬ス

二 第三課長 編記 憲兵 特按 一名 編記
憲兵 特按 一名 大使 編記 官 一名
右 外 書記 生 又 外 務 省 警 部 主 事
及 外 務 省 通 査 四 名 附 屬 ス

三 第三課長 (兼任 園東 總 務 官) 外
務 省 警 視 又 警 部 一 名 及 兼 任
園 東 總 務 官 一 名

右 外 務 省 通 査 二 名 附 屬 ス
四 監察 官 編 記 憲 兵 特 按 一 名 外
務 省 警 視 又 一 理 事 官 一 名 兼 任
警 視 一 名 監 察 官 一 名 必 要 二 應 じ 通
査 各 課 一 兼 務 員 也

二月

石川部長 五日より大倉部長石川義雄ハ患痛三
休 暇 療 養 (五日) 十二日出勤ス

警務顧問 九日軍 憲兵司令部 園市廳 各係官
囑 託 協議ノ結果 警務部 構成ニ伴ニ園

事ニ應 警務局長ニ對シ 互記要旨ノ下ニ
警務顧問向テ 囑託スルコトニ決又リ

一 警務顧問向ニ 大使館警務ノ関スル顧問
ヲ囑託スルニ 辭令ヲ奉令スルコト

二 警務顧問向テ 警務部 機構再行ニ入 警
務部ニ顧問ヲ置キ 暫クハ 内閣

廳 警務局長之ヲ囑託スルトノ旨

警務部	二十一日電報並訓令第三號ヲ以テ
警務部	二月二十七日規程訂正済
規程一部改正	昭和八年十月
規程一部改正	昭和八年十月
警務部規程	十四日外務大臣訓令第... 昭
和八年十二月二十七日制定ノ警務部	規程一部改正ニシテ
警務部	向內訓ヲ發スルコト
警務部	陣(且詔問ニ應ズルコト)
警務部	二回大使及警務部長ニ意見ヲ
警務部	務顧問ニ對シテ警務顧問ハ警務
警務部	三警務顧問ノ職務ニ對シテ大使ヨリ
警務部	警務顧問規程内ニ記入スルコト



規程施行

昭和八年二月二十七日制定ノ警務部規程ハ昭和九年二月二十一日ヨリ施行ノコトニ訓令セラレタリ

左記

外務大臣末電 (三月二十一日)

客年十二月二十七日附訓令第五號及本年一月十四日附訓令第一號ニ關シ二月二十日ヨリ施行ス

委細ハ本日附訓令ニヨリ承知スヘシ

(警務部附設ニシテ)

訓令第二號

在滿帝國特命全權大使

在滿各帝國領事官

在滿日本帝國大使館

	<p>昭和八年十二月二十一日附訓令第五 号ヲ以テ制定ノ駐滿日本帝國大使 館警務部規程ハ昭和九年五月 二十一日ヨリ之ヲ施行ス</p>
	<p>昭和九年三月二十一日 外務大臣 廣田弘毅</p>
<p>文書及電 信取扱 内規制定</p>	<p>在滿日本帝國大使館總務課卜同 警務部第一課卜同於ケル文書及 電信取扱内規左記ノ通制定セラ レタリ</p>
	<p>左記</p>

在滿日本帝國大使館

大使館總務課ト同警務部第一課
ト同ニ於テハ文書及電信取扱規

(昭和九年三月二十二日)

第一章 發信

第一條 發信務部立案文書及電信ハ
總務課第一課(以下第一課
ト稱ス)ヨリ之ヲ總務課ニ回付スルノ
トス

第二條 總務課ニ於テハ前條ノ立案文
書又ハ電信ノ回付ヲ受ケルトキハ條約
例規慣例及事務連絡等ニ付取
調(處理ヲ為シタル後)之ヲ發送ヲ
為スルトス



但し之方、其旨ニ變更ヲ要スト認
ムルトキハ其旨ヲ明ニシ第一課ニ回付
スルヲトス

第三條 警務部規程第三條第四項
ニ依ル發信ハ必要ニ應ニ第一課又ハ
警務部ニ主務課ニ於テ之ヲ取扱フ
為スコトヲ得

但し右之文書又ハ電信原文ハ發送後
能ク限リ速ニ第一課ヨリ總務課長ニ
送付スルヲトス

第四條 第一條ノ文書又ハ電信原文ニ
テ寫テ要スルヲカントキハ總務課ニ於テ
之ヲ作成シ第一課ニ交付シ第一課

ニ於テハ用濟後之ヲ總務課ニ返	付スルモノトス	再回之西如スルモノ取扱ハ之前項ニ准テ	第二章 受信	第五條 總務課ニ於テハ受信文書中	警務部主管ニ屬スルモノ及警署警察	經費ニ關スルモノ之ヲ第一課ニ回付	シ第一課ニ於テハ用濟後之ヲ總	務課ニ返付スルモノトス	第六條 五條ノ文書中寫ノ如クモノコ	付テハ總務課ニ於テ之ヲ作成シ第	一課ニ交付シ第一課ニ於テハ用濟	後之ヲ總務課ニ返付スルモノトス
----------------	---------	--------------------	--------	------------------	------------------	------------------	----------------	-------------	-------------------	-----------------	-----------------	-----------------

在滿日本帝國大使館

第七條 總務課ニ於テハ交付ト書又
 ハ電信中 警務部ニ關係ヲ有
 スルハ之ヲ第一課ニ回付シ第一
 課ニ於テハ用件後 滞滯ナク之ヲ
 總務課ニ返付スルコトヲ

第三章 部外回覽

第八條 部外機關ニ回覽スルハキ文
 書又ハ電信ハ總務課ニ於テ之ヲ
 取扱フ為メトス
 但シ急キ要スルハ第一課ニ於テ
 之ヲ取扱フ為メトス

警務部規程第三條 第四項

警務部長ハ警務上緊急ナル事項



付在滿各領事館警務部長同
 警務部長及同警務分署長上内
 二直接通信ヲ為ス候レ併シ警務用
 電信符號ヲ特設スルコトヲ得但レ
 本項ニ依リ直接通信ヲ為シタルトキハ
 商後各所屬公館長ニ報告スルコト
 ヲ要ス

警務部奉 皇親 訓令(昭和八年十二月二十日)附訓令
 第九號 第五號 及同九年二月十四日附訓令第
 一號 アリテ 駐滿日本帝國大使館
 警務部規程ニ因リ二月二十日附訓
 令第二號ヲ以テ二月二十日ヨリ之ヲ



徳行の上日二十一日電訓（年一五五）
二接し二十一日より警務部トシテノ事務
ヲ開始セリ

田代警務 二十一日田代憲兵司令官ハ二月二十一日
部長就任 附左ノ發令ニ依リ大使館警務部長
ニ就任ス

陸軍少將 田代院一印
駐滿帝國大使館警務部長事務
ヲ開始ス

警務顧問 二十一日大使館警務顧問ニ付
同發令 左記發令セラル

在滿日本帝國大使館

二月二十二日付

園東總警務局長大場鎧一郎
駐滿帝國大使館書記長岡田
鑑
託

杉村警部 二月二十日長谷川警部外七名八月十日付附
外務省令 七ノ發令ヲ受ク

外務省警部	長谷川	清
外務省警部	杉村	政博
外務省警部	瀧島	保家
外務省逓信部長	山出	嘉加名雄
外務省逓信部長	石川	義雄
外務省	辻	直石
外務省	回	義雄

在滿日本帝國大使館

工砂少佐	二十四日上砂少佐ハ二月二十四日附左ノ
警務部	發令ニ依リ本日より第二課ニ勤務ス
事務部	陸軍軍醫兵少佐 上砂勝 七
事務部	駐清帝國大使館警務部事務ヲ
事務部	獨記ス
渡部達查	二十七日八道溝分署勤務達查渡

外務省 達查 獨崎 金藏
 外務省 達查 松村 晴 保
 在新子總領事館警務部兼勤
 又
 在新子總領事館兼勤之命ス



<p>部要造 吉林警署奉旨勤務人之</p>	<p>石橋淺之助 頭道博警署奉旨勤務 奉旨寺田哲夫 三月廿二日 附在吉林總領事館警署奉旨勤務 附在新奉總領事館奉旨勤務</p>	<p>命 本日(高任) (渡部第二課 石橋第一課 寺田第一課 勤務)</p>	<p>高橋直青 二十七日 奉旨警署奉旨勤務 達查高 高任 橋輝男 八月十日 附在吉林總領事館警署奉旨勤務 在新奉總領事館兼勤務 奉旨勤務 奉旨勤務</p>
-----------------------	---	--	---



任ス (第二課勤務)

植木中佐

二十八日 咸興憲兵隊長 植木中佐 八月

警務部

二十四日 附左ノ發令ニヨリ 警務部

事務屬託

第二課ノ勤務ス (第二課隊長)

陸軍憲兵中佐 植木 鎮夫

駐滿蒙大使館警務部 事務ヲ

囑託ス

横山少佐

二十八日 吳憲兵隊勤務 横山少佐 ハニ

警務部

八月二十四日 附左ノ發令ニヨリ 本日より 警務

勤務屬託

部 第二課ノ勤務ス

陸軍憲兵少佐 横山 憲三



駐滿帝國大使館送言務部ハ事務ヲ
囑託ス

三月

自働車 一日警務部用トシテ三二号型トシテ
配給 壹台購入配給ヲ受テ

石川部長四日送言部長石川義雄ハ昭和八年
賜暇飯朝十一月十日附賜暇飯朝許可セリ
居リテ慶市ノ家族同伴未タセリ

小池警部 九日哈商送言部送言勤務警部

在滿日本帝國大使館

外務省地位

小池房昭警部補九月五日長海

部外館勤務込表長谷川健

治三名八月十五日附在吉林總領

事館警部補勤務在新草總領

事館警部補勤務命室地位又

(小池九回第二課長右川第三課勤務)

金井事務九月間中上廳事務官金井澄治ハ三月

官停之ヲ以附兼任外務事務官亞細亞局

第二課勤務ヲ命セリ警務部第一

課長ニ就任セリ

平井警部九月間中上廳警部兼外務省警部

在滿日本帝國大使館

平井芳記 三月六日附大使使館警務
部勤務ヲ被命 同任又(第3課勤務)

警務會議 三月十三日警務部警務會議 南催
南催日內是 万三園之左記內定マラタリ

互記

二月四日木曜日午前十時ヨリ

二同日警務部勤務高等官同會
食

谷川警部 十三日南催 廳警部補兼外務省警部
補着任 部補谷川保定ハ三月六日附大使館
警務部勤務ヲ命也之同任又(第3課勤務)



泉警視 着 任	十四日 關東廳警視兼外務省警視 泉文三八三月六日附大使館警務部 勤務之命也之し着任之(第三課勤務)
谷本警部 着 任	十四日 關東廳警部兼外務省警部 谷本寛四即八三月六日附大使館警部 務部勤務之命也之し着任之(第三課勤務)
佐藤警長 着 任	二十日 本有勤務中、外務省込有部次 佐藤善治八三月六日附在吉林總領 事館警察署勤務在新京總領事 館兼勤之命也之し着任之(結理課勤務)

在滿日本帝國大使館

警務部 二十八日 駐滿大使館警務部ニ處務
處務細則細則互記ニ通リ制定セラレタリ
制定

互記

駐滿日本帝國大使館警務部處
務細則 (昭和九年三月二十八日制定)

第一章 總則

第一條 駐滿日本帝國大使館警務部

規程第十條ニ依リ本細則ヲ定ム

第二章 部員會議

第三條 部內事務連絡及各課事

務ノ報告及其他重要ナル部務ヲ

協議スル爲メ部員會議ヲ開ク

第三條 部員會議ハ每週一回之ヲ開ク

但シ必要ニ應ジ臨時開クコトアルヘシ

第四條 部員會議ニハ警務部勸務

ノ高等官出席シ尚シ西女ニ在ル其

ノ他ノ大使館員タル高等官之ニ出

席スルモノトス

警務部長ハ必要ト認ムトキハ公

務ヲ以テ新京滞在ノ在滿領

事官及領事館警務部長、同

署長、同分署長其ノ他部外機

関ノ將校又ハ高等官ニ出席ヲ求

ムコトアルヘシ

第五條 第一課長ハ會議議事録

ヲ作成スルモノトス



第三章 文書ノ取扱

第一節 總則

第六條 警務部文書及電信ノ受發

ハ總務課第一課ヲ經由スルモノトス

第一課ト大使館總務課(以下

單ニ總務課ト稱ス)トノ間ニ於ケル文

書及電信ノ取扱ハ別ニ定ムル所ニ

依ル

第二節 受發及配付

第七條 警務部主管ニ屬スル文書ハ

第一課ヨリ主務課ニ配付シ主務

課ニ於テ處理シタル後之ヲ第一課

ニ回付スルモノトス

前項ノ文書中 部外ノ機關ニ回覽
ヲ要スルモノハ主務課ニ於テ同文書同
ノ上部欄外ニ其ノ上ヨリ記載スルモノ
トス

第八條 來電寫ハ第一課ニ於テ之ヲ主
務課ニ配付シ主務課ニ於テ之カ處
理ヲ為スモノトス

前項ノ電信寫ハ主務課ニ於テ電信
受付簿ニ登載シタル上ヨリ附印シ
押捺シテ之ヲ保管シ其ノ必要止ニ
タルトキハ第一課ニ返付スルモノトス

第一項ノ電信中 部外ノ機關ニ回覽
報ヲ要スルモノハ主務課ニ於テ暗原

電信ハ之ヲ解文ニ送付先名及機
 密又ハ普通若ハ緊急取扱ノ区分
 ヲ記載シ第一課ニ送付スルモノトス
 第九條 主務課ニ於テ第一課ヨリ回
 覽ノ文書又ハ電信ヲ受付ケタルト
 キハ必要ノ處遅延ヲ為シタル後遅滞
 ナク第一課ニ返付スルモノトス
 第十條 主務課ノ文書及電信取扱
 課長又ハ於テ必要ニ應ジ關係各課
 及部外機關ト合議シタル後發給
 部長ノ裁決ヲ受テ第一課ニ回付スル
 モトトス



第十條 立書ヲ訂正シ又ハ廢棄ト爲シ

タルトキハ主務課ニ於テ其ノ事由ヲ

附記シ合議ヲ爲シタル關係課長

及部外機關ニ保覽スルヲトス

第十一條 立書ノ文書又ハ電信ニ起草

年月日及機密 普通又ハ電信符

號ニ區別ヲ記載スルヲトス

第十二條 立書ノ文書又ハ電信發送後再

回又ハ其ノ寫ヲ要スルトキハ關係課

ニ於テ同立書トシ其ノ旨ヲ記載スル

ノトス

第十四條 第一課ヨリ總務課ニ送付シタル

立書ノ文書又ハ電信中總務課



コリ立事ノ主旨ニ付変更ノボノ事ヲ
 トキハ主務課ニ於テ之カ處理ヲ為シ其
 結果ヲ警務部長ニ報告シ其
 必西ニ應シ合議ヲ為シテ關係各
 課及部外機關ニ通告スルコト
 第十五條 主務課ニ於テ第一課ヨリ第
 十條ニ依リ發送後ノ立事ノ文書又
 ハ電信ノ再回ヲ受ケタルトキハ用済後
 第一課ニ送付スルコト
 主務課ニ於テ第一課ヨリ發送後ノ立
 事ノ文書又ハ電信寫ノ送付ヲ受ケタル
 トキハ公信又ハ電信受付簿ニ登錄
 シテ上日附印ヲ押捺セラシメ之ヲ保管

其必要止之タトキハ第一課ニ返
付スルコトナ

第十六條 警務部規程第三條第
四項ニ依リ在滿各領事館警務部
長同署長又ハ同分署長ト直接通
信スルハ文書又ハ電信ハ主務課ニ於
テ文書又ハ電信發送ノ簿ニ登錄シ
發送後速ニ原案ノ文ヲ第一課ニ送
付スルコトナ

第十七條 外務大臣又ハ領事官宛文書日
又ハ電信ハ大使名ヲ以テ發信スルモ
ノトス

前項ノ文書又ハ電信中警務部ニ関シ



急ヲ要スルモノハ其ノ寫ヲ關係署長
又ハ分署長ニ送付シ又ハ転電スルコト
ヲ得

転電ノ方法ニ関シテハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 警務部規程第三條第四

項ノ規程ニ依ル場合以外ニ於テモ重

要ナラザル文書ハ警務部部長名又ハ

警務部名ヲ以テ発信スルコトヲ得

但シ其ノ取扱ハ一般文書ニ同シ

第十九條 各課長ハ其ノ所管事務ニ関

シ急ヲ要スル事項ハ時機ヲ失セス

警務部部長ニ報告シ尙之ト同時ニ



必要ニ在リ参考事官ニ通報スルモノト
ス

第三十條 各課長ハ其ノ所管事務ノ
ニ關シ急ヲ要スルモノハ關係ヲ有スル
課長及總務課長並ニ部外機
関ニ便宜ノ方法ヲ以テ通報スルモノ
トス

第三十一條 各課長ハ其ノ主管事務ノ關
シ重要ナル事項ハ警務部長ニ命ジテ
存シテ警務顧問ニ申報スルモノトス
第三十二條 各課長ハ毎月ニ主管事務
ニ關シハ簡單ナル狀況報告書ヲ作
成シ翌月五日迄ニ警務部長ニ提

出スルモノトス

第一課長ハ前項ノ報告ヲ取纏ヒ
大使館警務記録ニ登錄スルモノトス

第五章 服務

第二十三條 各課ニ出勤簿ヲ備ヘ職
員ハ毎朝定刻迄ニ出勤シ自ラ之ニ
捺印スルモノトス

第二十四條 一トキ午前一時ニ至ル迄ハ
執務ヲ休止スルコトヲ得

第二十五條 職員病ニ及リ其他ノ事故ニ依
リ出勤スルコト能ハサルトキハ當日午
前中ノ所属課長ヲ経テ該警務部
長ニ出席スルモノトス



第三條 部内ニ於テハ勤務命令及

出張命令ハ辭令ヲ用ヒス 惟ハ簿
ヲ用之ヲ指示スルモノトス

第三七條 部員出張ヲ命セシタルトキハ

出發ノ所所屬課長ヨリ必要ノ指
示ヲ受クンモノトス

高等官ノ出張ニ在リテハ之別項ノ外

警務部長ノ指示ヲ受クンモノトス

第三八條 職員出張ノ用務了リ歸任

シタルトキハ五日以内ニ復命書日ヲ所
屬課長ニ提出シ高等官ノ復命

書其他重要ナル復命書ハ所屬

課長ヲ經テ警務部長ニ提出スル

マラトス

前項ノ期間ハ所屬課長ニ於テ之ヲ
伸縮スルコトヲ得

第六章 宿直

第三九條 警務ヲ部ニ宿直ヲ置キ休日
又ハ執務時間外ニ於テハ文書ノ取
扱及部内全般ノ取締警戒ニ當ラレ
ルニモトス

第三十條 宿直ハ專任外務省判任
官一名及込査一名ヲ以テ之ニ充ツルモノ
トス

第三十條 宿直ハ宿直ノ翌日午時
中ノ勤務ヲ免スルコトヲ得



第三條 付、日當直ハ執務時間内
始ヨリ午後五時迄トス

第三十三條 宿直員ハ至急ヲ要スル事項
アルトキハ必要ニ應ジテ總務部長、
主務課長、參事官、總務課長、
又ハ關係者ニ報告又ハ通報スル
モノトス

第三十四條 宿直員ハ文書、電信及電
話ヲ接受シ至急ヲ要スルモノハ必要
ニ應ジテ總務部長、主務課長、
參事官、總務課長又ハ關係者
ニ報告又ハ通報スルモノトス

第三十五條 宿直員ハ副達シタル公信

書留郵便 電信電話及取扱事
 頂上要領ヲ有直日誌ニ記載シ明之
 朝第一課長ニ供覽スルヲトス

青森部長 六日 本省勤務中ノ込有部長青森
 着 任 慶太郎ハ三月二十八日附在吉林總領
 事館警備室勤務 在新京總領
 事館勤務ヲ被命 官同任又(經理官勤務)

杉村警備部 十日 杉村警備部外三名ハ三月三十一日附
 外三名在外 巨ノ發令ノ受ク
 務通証生 外務省警備部 杉村政傳

外務省警備部 福島保家

外務省警部 小池房治

任外務通譯生 給七給俸 (杉村)

滿洲國在勤ヲ命_二

兼任外務省警部

在新京總領事館勤務ヲ命_二

丸田警部 十日 丸田警部補 八月三十日附左

補任外務 奉令ヲ受_レ

通訳生 外務省警部補 丸田五百共藏

任外務通譯生 給八級俸

滿洲國在勤ヲ命_二

兼任外務省警部

在新京總領事館勤務ヲ命_二

上田達查 着 任	十三日哈爾濱省警察廳用勤務達查上 田康一八三月三十一日附在吉林總領 事館警察廳省勤務在新加坡總 領事館兼勤了被命一室同任又 (第一課無電係)
丸田通記 生敘勳	十五日通記生丸田五百藏八四月五日 附敘勳七等授勳寶章一發令受了
高橋達 香原桂 中 亨	達查高田輝田了妻八四月十四日御 里千景縣發同月十八日到省家族 中亨の追認願提出八月七日附追認 許可也

杉村通訳 杉村通訳生外三名ニ對シ左ニ通昇

生外三名 級奉令セラル

昇級 三月三十一日附

給六級俸 兼外務通訳生 杉村政傳

給七級俸 石 今 福島保家

給七級俸 右 今 小池房治

給八級俸 右 今 丸田五百藏

五月

石橋込香 三日ヨリ込査石橋淺之物黃疸ノ為

休暇 休暇(三十日間)療養中ノ處二十三日

出勤ス



自動車 八日 警察部用トシテ 乘用自動車「三四
配給 年型 ヴィルク」壹台 購入配給ヲ
受ク

自動車 十日「五二年型」工セソクス「壹台」大使
車 館へ返納ス

渡部 込査 二十日 互ノ通ノ 語學ヲ 手當支給ノ 差令
外官 語學ヲ 受ク

手當支給	三月三十一日附
三等 (支那語) 込査 渡部 要造	
五等 (支那語) 込査 部長 長谷川 健治	
三等 (英語) 込査 上 田 康一	

在滿日本帝國大使館

二等 (朝鮮語) 达查部長 石川義雄
三等 (露語) 达查部長 山出嘉嘉 呂雄

石川部長

二十日 达查部長 石川義雄 达查渡部

石橋部長

要造 石橋淺之助 三月八日 三月五日

加俸給與

附稱勤加俸 廿圓 給與 一 癸令 受ノ

石橋達查

三十一日 达查 石橋淺之助 八風和義 教心

休暇

ノ 為 休暇 療養 又

六月

石橋達查

二十八日 达查 石橋淺之助 八風和義 又

休暇

熱ノ 為 休暇 勤ノ

七月

寺岡達也 达也 寺岡哲夫 妻ハ七月十八日 本籍地
家族呼考 札幌市 出発 七月二十日 到室 同 昭和
九年八月七日 附人 普通 第五七三 係
マタ 家族呼考 呼 認 セラレタリ

考試合格 三十日 达也 部長 長谷川 健治 ハ 去月 四月
表 施行 又ハ 外務省 警務部 警務部 補 特別
任用 試験 合格 又 令 受ケ
(合格者 三十一名)

八月

代警務 一 附 代警務 部長 ハ 八月一日 附 左ノ



部長離任

奉令ヲ受ク

陸軍中將 田代皖一郎

駐滿帝國大使館警務部長ノ事
務嘱託ヲ解ク

若佐學務
部長着任

若佐學務 六日 若佐少將 八月一日 附左ノ奉令
ニ依リ 平日 着任ス

陸軍少將 若佐豫 郎

駐滿帝國大使館警務部長ノ事
務ヲ嘱託ス

逓信部長
任 命

逓信部長 十日 逓信 石田義雄 八月八日 附左
逓信部長ニ任命ノ奉令ヲ受ク



和國警部 二十日和國警部外十名左ノ通昇給
外名昇給ノ差令ヲ受ク

十一月三十日

給月俸 六〇圓	外務省警部	和田豊	秩
給月俸 六二圓	外務省達查部長	齊藤慶太郎	
給月俸 五一圓	外務省達查部長	佐藤善次	
給月俸 四六圓	外務省達查部長	石川義雄	
給月俸 四一圓	外務省達查	石田義雄	
給月俸 三八圓	外務省達查	猶崎金藏	
給月俸 三七圓	外務省達查	松村晴源	
給月俸 三七圓	外務省達查	寺田哲夫	
給月俸 三七圓	外務省達查	上田康一	
給月俸 三六圓	外務省達查	高坂 光	

給月俸三五圓外務有込香高橋輝男

石橋達香二日込香石橋茂之助八風和殿
休暇熱為付暇秩勤又

小池通政二十日外務通政生兼外務有能官
生轉勤部小池房治八月十八日附免本官
專任外務有能部在哈爾濱總
領事館警部察異勤務之被命本
日去發赴任又

九月

九回通政十五日警部九回五百藏八反月滿

不逞ノ徒前魁官邦傑外ノ名ヲ謀
捕シタリ切學ニ依リ九月五日附金
松園賞典ノ發令ヲ受ク

十日

石川部長二日賜暇取朝中ノ込査部長石川
敏任義雄ハ家族同伴取任也

友井部長二日込査部長友井荒次ハ八月三十日
着任附在吉林總領事館警務課勤
務在新吉總領事館兼勤ヲ受
命着任又(第二課勤務)

石川部長 三日より出張部長石川義雄患痛
休 暇 為休暇療養官三日間一日出勤

金井事務 五日 閣下廳事務官兼外務事務
官轉勤官金井道昭八十月二日附閣下廳
務工課少長ヲ命也ラシ出發赴任下

福岡警視 十五日 閣下廳警視兼外務省警視福
看 任回第一八十月十三日附大使館警務部
勤務ヲ命也ラシ同任又(第三課勤務)

大使館移 十月十四日十五兩日大使館ハ新廳舎
轉 (軍司令部中)ニ移轉シタルヲ警務部

在滿日本帝國大使館

八十日 移転完了アリ

松村達香 二十一日 達香 松村晴原 八十月十日
勤 附在 答問者 總領事 館長 答問者
陶賴昭 分署 勤務 少 秘令 本日の
本 奉 赴 任 不

十一日

答問者 二日 答問者 長谷川博三 對シ 十一日 附
答問者 友記 登令 受 不

十一月一日 附

外務省 答問者 長谷川 博三

任 外務省 答問者



殿高書官七等

岩川警視二十五日外務省警視岩川清海八十一
日 位月十五日附叙從七位、念令受ク

十一月

横山少佐二十七日陸軍憲兵少佐横山憲三ハ
編託解除本日附警務部事務編託ヲ解除

カ

松浦大尉二十一日松浦大尉八十二月二十七日附左
警務部事務登令依り本日の看任ス

務編託

陸軍憲兵大尉 松浦克巳

在滿日本帝國大使館

駐滿帝國大使館事務部事務ヲ
屬託ス (第一課勤務)

末松理事

二十九日十二月二十一日附以事務理事官

官邸朝

末松吉方一級朝命令ヲ受ク

命令

昭和十年

一月

奉命視

五日(陸軍)陸軍省視兼外務省有世之視

轉勤

奉文三八十二月二十一日附同軍部總務

生課長ヲ命セシ出發赴任ス

昭和十年

在滿日本帝國大使館

末松理事官十四日外務理事官事務官日原公外務省
外名許令警備長石川清昭九年十二月
二十一日附周中重慶兵隊司令官部革
務ノ囑託ヲ解カニ

長洲總督 昭和九年十二月十五日附人普通第九
視家控 七ノ預ヲ以テ家控中寄許あり受ク夕
中 寄ニ答言復長石川清昭兵女朝子一月
十七日宛直新潟縣林出資同子五日
到手同又

福島通訳 二十五日福島通訳部生ニ対シ左記發令
生界給セクニ

在滿日本帝國大使館



十一月二十六日附

給月俸七拾圓 外務省通達
兼外務省大臣 瀨島保家

高坂达五二十五日达查高坂光二月十日附在吉林

着 任總領事館監督察吏勤務在新京總領

事館兼勤之被命者同任(第一課勤務

守屋第一二十七日大使館参事官守屋和郎八月

課長就任二十七日附参事部第一課長之被命令

日就任マリ

芥川理事二十七日大使館理事官芥川長治八昭和

二十九年十月一日附滿洲國在勤之被命

在滿日本帝國大使館

着任ス(第一課勤務)

友井部長 三十日友井部長外八名ニ對シ左ノ通昇
外名昇給 給ノ奉令ヲ受ク

十二月三十一日附

給月俸 四九圓	外務省次長	友井 荒次
給月俸 四二圓	外務省次長	石田 義雄
給月俸 四五圓	外務省次長	石橋 渡之助
給月俸 四五圓	外務省次長	渡部 要造
給月俸 三九圓	外務省次長	猶崎 金藏
給月俸 三八圓	外務省次長	寺田 哲夫
給月俸 三八圓	外務省次長	上田 康一
給月俸 三七圓	外務省次長	高坂 光



給月俸五六圓外務省達查高橋輝男

二月

石橋通查 四日より達查石橋茂之助ハ風邪発熱
休暇 為休暇療養良シ翌五日出勤ス

警察官ノ 二月六日附申公信ヲ以テ警務主任若島
寫真控事 領事より外務省警察官寫真其控事

ニ関シ其川警察視死左記通來信
アリタリ

互記

本省備付外務省警察官初等添付
用寫真申 三六五十五年四月御送付



相成リタル儘ノモノニ相當回有之從テ現
 在ノ本人ト寫真トハ年齡 階級等符
 合セス寫真ヲ以テ紹介スルカ如キ場合
 本人ノ寫真亦面白カラサシ様恩料セラ
 ハコト屢々有之就テハ箇今左記ニ
 依リ署首寫真送付方御取計相
 成度

記

- 一 拜命又ハ昇進後引續キ同一階級
- ニ 在トスノハ滿五年ニ及ニ新ニ撮影提
 キコト
- 三 昇進シタル者ハ其ノ初度撮影提出
 コト



三 寫真、總之制服着用。脱帽、
 身、手札型、毛ノ但壹紙ヲ要セズ
 裏面ニ本人ノ官氏名並所屬署
 名記載ノコト

末松理事 七日晨ニ服朝ヲ被命、又ハ未詳ノ理
 官考發 事官末松吉次書奏服朝ス

嶺崎盛 九日達查嶺崎全藏、二月十日附在
 轉 勤 滿洲里領事館警口察、勤務ヲ被
 命、右日書奏赴任ス

御賜旨 十三日晨ニ御旨下賜、御沙汰ヲ拝受



傳 達	シタニ 陛下賜品御長ハ表日 警務部 直接室ニ於テ 警務部員ニ對シ 傳 達式ヲ舉行シタリ
杉山部長	辛酉日 哈爾濱省警口 奉 賞 勳 章 中ノ 込
着 任	查部長 杉山 廉ハ 義ハ 二月九日 附在 吉 林總領事館 警口 奉 賞 勳 章 中ノ 込 京總領事館 兼 勤之 神 命 着任ス (第二課 勤務)
福回警	三月
視察勤	同日 園中 尚 警 視 兼 外 務 省 警 視 福 回 第一 三月 二十日 附 板 順 工 科 大 姓 子

在滿日本帝國大使館

事務官に任され事務赴任す

分右警部五日 国庫高等警部 兼外務省警部
転 勤 谷本免四郎 八尾房店警部署長
ヲ命せしむ事務赴任す

友井部長五日 昭和十年三月二十日 時人普通 第一
家後改朝一三八 孫ヲシテ家後改朝 許アセテシテ
ハ 米倉部長 友井 荒次ノ長男 龍雄
ハ 廣島縣 向ヒ 出發ス

木田警部 七日 国庫高等警部 補兼外務省警部
補着任 補木田道昇 八三月一日 時大 使節 訪 華 白

在滿日本帝國大使館

務部勤務之命セラシ 兼任又
第三課勤務)

平井警部 九日 副軍務部 兼 外務省警部
勤 平井芳記ハ三月一日 附年 總領事館
警部署長ノ命セラシ 事務兼任又

休暇 二十七日 込查石橋淺之助ハ 風邪ヲ患
為 休暇療養中 (四月一日) 二屬三
十日 出勤又

山本部長 二十七日 込查部長 山本嘉名雄ハ 三月廿五日
勤 暇 暇 暇 朝 許可セシ 家 接 同 伴 書 致 又

在滿日本帝國大使館



四月	<p>九回警部 二十五日警部九回五回藏ハ昭和九年由 警部賞典 月乃至六月三月二日中岡共産党員 田田名ヲ授与シテ功ニ依リ三月三十 日附金貳拾五圓賞典ノ及テ令ヲ受ク</p>	<p>高坂达彦 二十五日 达彦高坂光ハ二道清分国付勤 警部賞典 務中昭和九年十月十日 匪賊ノ襲撃 二勇ノ敢ニ行動シテ功ニ依リ三月三十 日附金拾五圓賞典ノ及テ令ヲ受ク</p>	<p>家探取朝 二十六日 昭和十年四月十一日 附人ニ普通 發令ヲ受ク</p>
----	---	---	---

在滿日本帝國大使館

第三三拜ヲ以テ版朝許のセラレタ
查石橋茂之助ニ男ニ明也版朝

移尾警部ニ七日輝春ヨリ賜版朝平ノ旨
着任 移尾涼一ハ四月十日附在吉林總領

事館警部上清勤務ヲ在新京總領
事館兼勤ヲ命セシ家族同伴並同
任 (第二課勤務)

川野警部ニ十八日駒道博警部上府勤務中ノ
補着任警部補川野留次ハ四月十日附在
吉林總領事館兼勤ヲ在
新京總領事館兼勤ヲ被命



	<p>官任下 (第二課勤務)</p>
<p>五月</p>	
<p>女松理事</p>	<p>五日飯朝中、外務理事官末松吉口</p>
<p>官運官</p>	<p>次、四月三十日附名願及官、余令 了、夕、青通知ニ指ス</p>
<p>牛尾警部</p>	<p>五日哈商眉警部、警部勤務中、警部 補官任</p>
<p>補官任</p>	<p>部補牛尾伊之八、五月二日附在吉林 總領事館警部及官、勤務在新京 總領事館筆勤ヲ被命、官任ス</p>
<p>(第二課勤務)</p>	<p>(第二課勤務)</p>



六月

船通訳	一日外務通訳在 和国豊秋ハ五月二日
生転勤	附免本官専任外務省官舎部在長
	沙領事館遊言察室局長ヲ命セリ本 日奉差赴任ス
福島通訳	一日外務通訳在兼外務省官舎部福島
生転勤	保家ハ五月二日附免本官専任外務
	省警部河島總領事館陣替分 館警察室局長ヲ被命本日奉差赴 任ス
渡部通訳	五日左通訳ヲ語學手考支給テ免令



外書培等	受	外書培等	受
年高支給	三月五日附	年高支給	受
	三等支那語達查渡部要造		
	五等支那語蓋部長長谷川健治		
	五等支那語達查石橋淺之助		
	三等朝鮮語達查部長石川義雄		
	二等英語達查上田康一		
	五等露語達查部長山中嘉高雄		
小出部長	六日賜暇飯朝中、達查部長山中	小出部長	六日賜暇飯朝中、達查部長山中
飯任	嘉名雄八家族同伴飯任不	飯任	嘉名雄八家族同伴飯任不
大江書記	十七日大使館三等書記官大江晃八	大江書記	十七日大使館三等書記官大江晃八

在滿日本帝國大使館

官着任 五月二十日附滿洲國在勤ヲ被命
着任第二課一勤務ス

六月

平也ハ奉 五日哈爾濱省總領事館ヲシテ
勤務ヲ
銃衛附 用トシテ「天」也ハ「壹」
彈幕一八。發ノ保管管轄換テ受テ

國島警部 八月三姓分署署長警部補國島吉造ハ
補着任 八月五日附在吉林總領事館勤務
察果勤務在新京總領事館兼
勤ヲ被命着任又(第一課勤務)

在滿日本帝國大使館

出立準備	七月九日若佐警務部長より出立準備
為要スル	ノ為ニ要スル休務日数等ノ旨ハ警務
休務日数	部勤務專任外務省警務官ニ付
等ノ旨ハ	記ノ通ニ示達アリ
左記ノ通	左記
從末轉勤	又ハ帰朝(賜暇帰朝)ノ旨
等ノ場合	ニ於ケル出發準備トシテ休務
日数其他	取扱方區々トナリ居タル處
自今左ノ通	一定ス
尚特別事情	ニ依リ規定以上ノ休務ヲ要
スル場合	ニハ在外公館休暇規程以上ノ
休務ヲ要スル	場合ニハ在外公館休暇
規程ニ依ル	休暇ヲ願出ラレ度シ

在滿日本帝國大使館

記

<p>一 伏務日数ハ家族持者ニ在リテハ三日 独身者ニ在リテハ二日トス但シ事務 都合ニ依リ短縮スルコトアルヘシ</p>	<p>二 出勤期日決定上五日ヲ明道ニ本 局ヲ提上シ所属課長ノ承認ヲ受 ケタル上第一課長ノ同意ヲ得テ 出トス</p>	<p>山本部長 工日 込直 部長 山本 嘉如 名 雄 八 月 二十 七日 転 勤 附 在 吉 島 總 領 事 館 警 告 系 用 勤 務 ヲ 復 命 本 日 未 免 赴 任 ス</p>
--	--	--



井上書記 十六日警務部第二課勤務中 大使
 官転勤 館書記官井上直太郎 八月五日
 附任領事 紐育在勤之命又し本
 日未奉赴任

八月

上砂文侯 一日陸軍重臣長少佐上砂勝七 八月一日
 託解除 附警務部事務ノ嘱託ヲ解カレ

石川部長 二十日石川部長外五名ニ對シテ左ノ通
 外五名昇 昇給及先令又し

給 六月三十日附

給月俸 回八圓 外務省達査部長石川義雄



	給月俸四三圓外務省達查部長石田義雄
	給月俸三九圓外務省達查 寺田哲夫
	給月俸三九圓外務省達查 上田康一
	給月俸三八圓外務省達查 高坂光
	給月俸三七圓外務省達查 高橋輝男
友井部長 于三日 休暇飯朝之家事整理 為御生慮島歸(休暇)	于三日 休暇飯朝之家事整理 為御生慮島歸(休暇)
旅行之	旅行之
	九月
及誠合格	五日 達查部長石川義雄 達查石橋謙
祭表	之物 同渡部西造 同上 同康一 同

在滿日本帝國大使館

	名ハ去月四月施行ノ外務省警備部警備部 補特別任田試驗ニ合格ノ後令ヲ受 ク
友井智長	八日家事整理ノ為智里廣島縣村へ休 暇飯朝中込在都長友井某次飯 任ス
飯 任	任ス
長谷川警視	十六日警視長谷川清ハ八月十日附賜 賜暇飯朝許可セラレ居リタニ慶平日家 族同伴出奔ス
賜暇飯朝	族同伴出奔ス
若佐警務	二十一日陸軍中將若佐祿郎ハ九月

在滿日本帝國大使館

卸長離任	二十一日附警務部長事務囑託之解
橘川込查	二十五日敦化警察署勤務中込查
着	橘川由五即八九月十九日附在吉
林總領事館警署	勤務在
新卒總領事館兼	勤務被命着
任	第一課勤務
上野込查	二十六日延吉警察署勤務中込查
着	上野平吉八九月十九日附在吉林
總領事館警署	勤務在新卒
總領事館兼	勤務被命家族同伴

在滿日本帝國大使館

着任 (第二課勤務)

眼鏡備 二十日陶鹿分館より眼鏡二箇保

附 管転授ヲ受ク

十月

渡部達查 三日達查渡部要造 今石橋清之助
外名達查 今上野中吉三 名ハ九月二十日時達查
部長在命 部長任命ノ奉令ヲ受ク

滿洲事變 七日芥川理事官以下十四名ニ對シ昭
論功行賞 和九年四月二十九日附テ奉 昭和九年
乃至同九年 事變ノ功ニ依リ 滿功行

在滿日本帝國大使館



賞券令セシ者賜物件ハ本日夫々傳

達セラレタリ

瑞六 賜金 從軍記章 大使館理事官 芥川長治

旭八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 松尾源一

旭八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 杉村政博

旭八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 島吉典

瑞八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 却留治

瑞八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 齊藤慶太郎

瑞八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 杉山勝義

瑞七 賜金 從軍記章 外務省通譯官 長谷川健治

賜金 從軍記章 外務省通譯官 佐藤善次

瑞八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 石川義雄

瑞八 賜金 從軍記章 外務省通譯官 石田義雄



<p>旭八賜金 從軍記章 外務省達查 渡部西女造 瑞八賜金 從軍記章 外務省達查 石橋淺之助 瑞八賜金 從軍記章 外務省達查 寺田哲夫</p>	<p>東條學務 十日東條少將八月九日附左ノ奏令 部長着任 二ヨリ本日警務部長ニ就任ス</p>	<p>陸軍少將 東條英 機 駐滿帝國大使館警務部長 警務 ヲ囑託ス</p>	<p>橋川達查 十八日達查橋川由五郎ニ對シ昭和六年 賞賜物件 乃至九年ノ功ニ依リ賞賜物件ハ前任地 傳達 敦化ニ送付アリ本日本人(傳達)ニシテ</p>
---	---	---	--

在滿日本帝國大使館

上野達查	二十三日達查上野平吉ニ對スル昭和六年
賞賜物件	ノ至九年功依ニ賞賜物件前住地延
傳達	吉ヨリ送付アリ小日本ノ傳達セシタリ
松尾等部	二十四日外務省總務部松尾源一八十月
叙位	位十四日附叙從七位ノ奏令ヲ受ク
丸田通記	生二十人日通記生丸田五百藏ハ昭和六年
論功行賞	乃至九年事變功依リ昭和九年
賞賜物件	四月二十九日附勳七等及賜金從軍
受領	記章早ヲ賜ハリ本日本ノ傳達

在滿日本帝國大使館

十一月

第五回外務十日午店三時ヨリ新宮神社拜殿ニ於テ
 有警官察指芥川祭典委自長五儀ノ下ニ殉職警官
 魂祭執行察官第五回招魂例祭ヲ執行ニ故國
 吉野部補遣族大高政次夫妻同
 高橋込查部員以遣族伊藤キヲヲ始
 々来着トシテ南全權大使代理、岡田大
 使館附長官、朝鮮總督府出張所
 長代理、大使館在考事官以下館
 員、領事館川村總領事、廣石警
 察署長以下館員外、車條警務
 部長以下部員全員、並ニ家族等ヲ
 合セ約百名ノ参拜ナリ午店三時十分

在滿日本帝國大使館

	盛大禮ニ終了セリ
	次ニ警備官一同ニ新東京忠靈塔ニ参拜シ地下ニ英魂ヲ弔ヒ冥福ヲ祈フニ午後四時散会セリ
高坂達查 飯朝命令	十五日 达查高坂老ハ十月二十日 附飯朝命令ヲ発令シテ受ケ出テ発ス
長谷川警 視飯任	十二月 八日 賜暇飯朝中、警視長谷川清 ハ家族同伴飯任ス
友井部長	二十三日 达查部長 友井荒次ハ家事

在滿日本帝國大使館

休暇飯朝 整理、為、御室廣島縣（休暇飯朝）

昭和十一年

一月

松尾警部 同日警部 松尾 第一 神經痛、為、
病、休暇、自宅、於、靜養、不

友井部長 十日 家事整理、為、御室廣島縣、
休暇飯朝、中、込、查、部長、友井、
中、飯、任、荒、次、飯、任、不

在滿日本帝國大使館

昭和十一年

松尾警部	十四日警部松尾源一八三男正昭吉 忌 引 二年十一死亡也為ノ十七日迄四日間忌引 又
松尾警部	十八日ヨリ警部松尾源一八三男正昭吉 休 暇 為休暇療養長五月十日級朝之命 又三日迄休暇欠勤也ノ
松村通政	二十日通政生松村政傳八昭和十年 生勤勤 十二月二十七日附專任外務省警部在 青島總領事館警部勤務ヲ被 命本日方登赴任ス



松山部長外三十日
 松山部長外八名ニ對シテ
 八名昇給
 給發令ヲ受ク

十二月三十一日附

- 給月俸五十九圓 外務省速書部長 杉山勝義
- 給月俸五十四圓 外務省速書部長 佐藤善藏
- 給月俸四十七圓 外務省速書部長 石橋淺之助
- 給月俸四十七圓 外務省速書部長 渡部要造
- 給月俸四十七圓 外務省速書部長 上野平吉
- 給月俸四十一圓 外務省速書部長 橋川由五郎
- 給月俸四十圓 外務省速書部長 寺田哲夫
- 給月俸四十圓 外務省速書部長 上田康一
- 給月俸三十八圓 外務省速書部長 高橋輝男



二月	<p>御賜昌 六日 曩々御昌下賜御沙汰之拜受し御 傳 達 下賜マラシム御長ハ警務部員ニ對シ本 日宇屋參事官ヨリ傳達マラレタリ</p>
<p>齊藤部 五日 込查部長 齊藤慶太郎ハ三月三 長近職 日附警部補ニ任官今日附依頼免官 ノ為令々受テ退職ス</p>	<p>友井約長 六日 二月二十四日附人普通第九七。輝 家務部員 以テ呼寄可許可ヲ受テ入込查部長友井 荒次ノ妻キ日ハ三月三日廣島縣長 到着ス</p>

在滿日本帝國大使館

石田部長	十一日達省部長石田義雄ハ二月二十日
賜暇收朝	附賜暇收朝許可セリ家族同伴 共祭ス
警備官	昭和十年度警備官試験ハ三
逆置試験	月六日支那語ヲ三月十一日其他(鮮
施行	語)ヲ施行セリ
川上部長	十一日同島警備部勤務中ハ達省部
清 在	長川上茂昭ハ三月四日附在吉林總 領事館警備部署勤務在新京總 領事館兼勤ヲ被命着任ス (第一詳勤務)

在滿日本帝國大使館

<p>若元部長 着任</p>	<p>十三日每日漢分署勤務中、 達查部 長若元鉄二ハ三月二日附在吉林 總領事館警察署勤務、 在新京 總領事館兼勤、 被命着任、 (經理課勤務)</p>
<p>若元部長 病休暇</p>	<p>十一日、 達查部員、 若元鉄二ハ 物中毒症、 為休務中、 慶金快十 八日出勤、 勤、</p>
<p>福田達查 着任</p>	<p>三日吉林警察署勤務中、 達查 福田長一即ハ三月十三日附在 新京總 領事館兼勤、 被命着任、 (警三課勤務)</p>

在滿日本帝國大使館

<p>芥川理事 二十三日 理事官 芥川長治 八月十五日 官政朝 附一時政朝之命也云々 奉不</p>	<p>川却警部 二十三日 警部補 川却留治 八月十三日 補政朝 附歸朝之命也云々 (内務省警官奉官講 習所入所為) 奉不</p>	<p>西川込查 二十三日 查南省警官奉官勤務中 込查 着 任 西川栄夫 八月十三日 附在吉林總領事 館警官奉官勤務 在新京總領事館 兼勤之被命着任不 (第一課勤務)</p>
---	--	--



三浦書院	二十一日大使館一等書記官三浦武美
官警務	ハ三月十九日时滿洲國在勤ヲ命セシ
部第課	本日着任警務部第一課長ニ就任
長就任	ナリ
牛尾警部	同日警部補牛尾伊之八、今國島吉典
補外名	、兩名ハ三月二十日时警部任官ノ奉令
警部任官	ヲ受ク
上田達香	同日達香上田康一ハ三月二十日时達
達香部長	者部長任命ノ奉令ヲ受ク
任命	

在滿日本帝國大使館

高坂丞

三日養正病歿朝中ノ決查高坂光ハ

飯 任

家族同伴飯任ス

大久保通政

八日同島警口察果勤務中ノ外務通

生着任

課生兼外務省警部大久保直次郎ハ

三月十八日附滿洲國在勤在新京總領事館勤務ヲ被命本日出着任セリ

(第三課勤務)

在勤加俸

三月二十五日附外務省令第七號以テ

並手當改

外務省警部勤務部補施行細則中

正

在勤加俸同年當額改正セリ

附則ニ基ク年度別給與額左記ノ



如シ

吉林頂拔萃記

改正額	十二年		十一年		苗額		年度別	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙	四級以上	七級以上
九五	一〇四	一〇六	一一七	一二八	一三〇	一三三	一〇三	一〇三
七五	八三	九六	九三	一〇八	一〇四	一一二	一一三	一一三
六四	七二	八六	八一	九八	九〇	一〇〇	一一〇	一一〇
七〇	七八	九五	八八	一〇八	九八	一一三	一一三	一一三
五三	六八	八四	八四	九七	七六	一〇八	一一〇	一一〇
五三	五三	五三	五三	五三	五八	五八	五八	五八
三五	四六	四六	四六	四六	五二	五二	五二	五二
四八	四八	四八	四八	四八	五三	五三	五三	五三
三〇	三七	三七	三七	三七	四七	四七	四七	四七

在滿日本帝國大使館

松本警部 着任	十二日内務省警部講習所卒業 松本保彌 三月十八日附在吉 林總領事館警部 總領事館兼勤之被命 着任 (第一課勤務)
吉本部長 病氣休眼	十四日込査部長石本鉄二 感冒為 休暇療養中 要(三日間)十七日出 勤ス
芥川理事 官版任	十五日版朝中 理事官芥川長治 版任ス

在滿日本帝國大使館

石田部長十五日賜暇返朝中、込查部長石
 軒勤奏令田義雄八四月九日附在漢口總領
 事館警察小黒勤務被命通一知
 二也也

警部警日 昭和十一年警務部補考試八回
 部補特別 月二十日、二十日各館一考、施行セラレ
 任用考試 當館警務部、於三月八日警務部第
 一課長室、於三定夜セリ、受驗者有
 佐之藤部長、西川、高橋、込查、三
 名、右表、結果、筆記試驗、在滿
 合格者百二十名、(八月三十一日附口
 述后、合格者細井武学九十五名)



福田達查 二十一日 达查福回長一即ハ寶妹結婚
休暇旅行ハ、列席ノ為、吉林ハ休暇旅行ニ
二十一日 敏任ス

石川部長 二十四日 达查部長石川義雄感冒為
体 暇 休暇療養中(四日間)中ニ屬二十一日
出勤ス

小長谷警 二十一日 上海警署事務勤務中、外務省
却肩任警部小長谷亮作ハ四月六日附在吉
林總領事館警署事務勤務中
京總領事館兼勤ヲ被命肩任ス
(第二課課勤務)



福田達查 二十日 達查 偏回 長一節 八三月 二十日 附
勤 在芝罘 領事館 警察 課 勤務 被
命 出 發 又

五月

牛尾英部 一日 警部 牛尾 伊之八 四月 二十日 附
飯 朝 朝 命 出 發 又

松尾警部 二日 警部 松尾 源一 五月 一日 附
飯 朝 被 命 朝 命 令 出 發 又

長谷川雄視 三日 警部 長谷川 清八 四月 二十日 附
大任 館 左 記 奉 命 出 發 又

	四月二十日 外務省有整、涅長谷川、光則
	任大使館理事官 (滿洲國在勤)
	高等官七等 賜回級俸
外務部長	五日 込查部長友井兼次 八四月十八日
轉勤	附至奉德領事館督察昇勤務， 被命出察赴任ス
橋川込查	五日 込查部長友井兼次 八四月十八日 附
賜暇返朝	賜暇返朝許可スレ 單身出察ス

在滿日本帝國大使館

植木中佐	七日 憲兵中佐 植木鎮夫 八日 附以
鳴託解除	ヲ 警務部 事務 鳴託 解除 せん
横山中佐	七日 国中 警務部 勤務 中 陸軍 憲
警務部 警務部 兵中佐 横山 憲三 八日 附 警務部	事務 鳴託 せし 第二課 長ニ 就任ス
松尾警部	十日 敝朝ヲ 命セラル 警務部 松尾 源
敝朝 警務部	一八 本 日 家族 同伴 出 発 敝朝 せり
上田部長	十五日 込 査 部長 上 田 康一 八 実 弟 病 身
休暇 旅行	看 護 ノ 為 ノ 大 連ニ 休 暇 旅行シ 十六 日
敝任	ス

在滿日本帝國大使館

上田部長	十八日 達查部長上田康一、東京ニ於テ
留學生試	施行、外務省留學生試験應試、為
驗應試	休暇ヲ得テ出勤ス
川上部長	二十五日、達查部長川上茂昭ハ風邪
休暇	発熱、為メ休暇自宅ニ於テ静養、五日
	間、二十七日出勤ス
石川部長	二十八日ヨリ 達查部長石川義雄ハ胃痛
痲痺、休暇	為メ、休暇療養中、(七日間)、六月
	四日、出勤ス
上田部長	二十九日 外務省留學生試験ニ應試、

在滿日本帝國大使館

為ノ東京ニ休暇取朝中ニ込査部長上
回庫一取任ス

佐藤部長 三十日込査部長佐藤善治ハ重病ニ伴
休 暇 ヲ發熱ニ為リ休暇自宅ニ於テ靜養(二
日間)六月一日出勤ス

少柳部長 三十日込査部長少柳昌信八月十八日
着 任 附在吉林總領事館管口家事務勤務

在新京總領事館事務勤務被命
着任ス(第一課勤務)

三月



川部延部	一日延部補川部留沼込查部長名足鉄
補外名籍	二、兩名八三月三十一日附精勤加俸三一
勸加俸典	同給典ノ奉令ヲ受ク
上田部長精	一日込查部長上田康一八三月三十一日附精
勸正書授典	勸證書授典ノ奉令ヲ受ク
岩部部長	上日込查部長長谷川健治八三月九日附
警部補信官	警部補信官ノ奉令ヲ受ク
橋川込查	十五日賜殿取朝中込查橋川由五郎
勤	ハ三月九日附在廣東總領事館被命ノ通知ヲ受ク

在滿日本帝國大使館

若元却長 十五日 込直部長若元鉄工腹痛爲ノ
痲痺休暇 休暇自宅ニ於テ靜養ス

滿洲事変 十七日 昭和六年乃至昭和九年事変ノ功ニ
論功行賞 依リ昭和九年四月十九日附テ以テ左ノ如ク
榮 令 行賞スルニ本日より夫々傳達スラシク

瑞八 外務通譯生 大久保直次郎
瑞八 外務省通譯長 上田 康一
賜金 外務省通譯部 松本保彌

紅野迷查 十八日 哈爾濱警察署署長勤務中込直查
着 任 紅野精八 六月八日附テ吉林總領事
館警察署長勤務中 新京總領事館

兼勤ヲ被命シ着任ス(第三課勤務)

小柳部長 二十四日ヨリ大塚部長少柳部長ハ神經
痛、肩ノ休暇自宅ニ於テ療養ニ回日
ハ病氣全快ニ二十一日出勤ス

電信電信 三月三十日大塚部長庶務課長ヨリ公
務課記載 信ニ電信番簿記載防止方ニ関
防止方ニ反記ノ通 注意通達ヲ受ク

機密

記

拜啓陳者公信ニ電信番簿記載
防止方ニ関スル在哈用者位ニ係



總領事宛 抄信 左記 通 御参考
返送付申 逕候 故 具

昭和十二年六月三十日

在滿日本大使館

大鷹忠彦 課長

警務部第一課長殿

記

機密

拜啓 陣府電信符號 且敷秘、取
旨ニ依リ公信ニハ電信番號引用
之辭ク凡コトニ相成居ル次第ハ豫テ

在滿日本帝國大使館

御承知の旨に有之候處貴官等御
 便宛五月四日丙公領第六三三番書
 信中二三番書用之夕ハ電信着豫
 三引用致居之就ハ將來其以ノ下
 無之様御留意相成度尚貴館
 職首ニモ此旨致存セシメ置力ル様
 致度此段申進奉得貴官等
 啟 具

昭和十一年五月三十日

在滿日本大使館

大鷹庶務課長

在哈爾濱官

佐藤總領事 殿

在滿日本帝國大使館

追向平仲、同シテハ、昭和九年十一
 月二十七日附申、公信ヲ以テ吉澤書
 記官ヨリ申進ノ旨ニ付、次等ノモ
 有之為念申添候

X
 月

在滿日本帝國大使館

渡部部長	十日左	通	語學	子	青	文	給	一	卷	今	多	委
外名語學子	三月	三十一	日									
手當文給	三等	(支那語)	込	查	部長	渡部	要	造				
	四等	(支那語)	込	查	部長	石橋	淺之	助				
	五等	(支那語)	込	查		西川	榮	夫				
	五等	(支那語)	込	查		紅野		精				
	二等	(朝鮮語)	込	查	部長	石川	義	雄				
	三等	(朝鮮語)	込	查	部長	石川	五	和	雄			
	二等	(英語)	込	查	部長	上野	平	吉				
	二等	(英語)	込	查	部長	上	田	康	一			
松尾警部	十日	飯	刺	中	警部	松尾	源	一	六	月	三	日
退職	十日	附	警	視	一	任	官	翌	二	十	七	日
												附
												依
												頼

在滿日本帝國大使館

	<p>免官ノ登令アリタル旨通知ヲ受ク</p>
<p>丸由通訳生</p>	<p>十五日通訳生丸由五百藏ハ六月二十七日</p>
<p>賜暇取朝</p>	<p>時賜暇取朝許可セシ家族同律書</p>
	<p>奈ス</p>
<p>大保通訳</p>	<p>十七日通訳生大久保直次郎ハ六月二十五</p>
<p>生賜暇取朝</p>	<p>日許賜暇取朝許可セシ家族同律書</p>
	<p>書奈ス</p>
<p>文書取勢</p>	<p>七月二十日大使館庶務課長ヨリ館内</p>
	<p>ニ於テ文書取取方ニ周シ左記ノ通り通</p>
	<p>達ヲ受ケタリ</p>

在滿日本帝國大使館

昭和十一年七月二十日

大鷹庶務課長

各課長殿

文書取扱ニ関スル件

平件ニ関シテハ本月十七日附ク以テ申
進置キタル處其ノ後彦事官御不
在中ノ札上ニ公信及電報等ヲ送付
放チアリタル事審査モ判明シタルニ就
テハ概テ漏洩又ハ文書紛失等防
止ノ爲ニ將來文書ノ取扱ク左記ノ通
ニ定ムルニ付右御了知ノ上貴部下ニ

對之此ノ旨御示達相成度
右依命

記

一機密ニ屬スル電信及ニ電信索ノ判
任官以上ノ者ヲシテ之カ持テ運ヒラテ
サレムコト

但シ文書係任官自及古村倉並多
回雇ヲシテ之ノ事務ニ當ラレムハ差
支ナレ

ニ電信及公信ハ配布先又ハ回任先ノ
責任者ニ直接ト交スヘク責任者
不在ノ故ヲ以テ之ヲ札上ニ致送シ
事ハカ如キコトハ嚴重慎レムコトヲ

在滿日本帝國大使館



川六部長	三十日ヨリ達查部長川上茂昭ハ腫物
休暇	切南手筋ニ自宅ニ於テ静養中 (四日間)ノ處八月三日全快出勤ス
佐藤部長	三十日ヨリ達查部長佐藤善治ハ家事ノ
休暇	都合ニテ休暇中(二日間)ノ處八月 一日出勤ス
寺田達查	八月
退職	七日達查寺田哲夫ハ八月六日附達查 部長ニ任命今日附依爾達查ヲ免 セシ退職セリ

高橋達彦	八日 达彦高橋輝男ハ哈爾濱ニ在リ
休暇旅行	從弟梅氣見舞ハ為ノ同地ニ休暇旅行シ九日返任ス
小柳部長	八日 达彦部長小柳高信ハ家事整理
休暇旅行	為ノ遼陽ニ在リ實見宅ニ休暇旅行シ九日返任ス
大塚通訳	十四日 賜暇暇朝中ニ通訳生大久保直
生飯任	次郎ハ家族同伴暇任ス
佐藤部長	二十日 达彦部長佐藤善若ハ腹痛
痲痺休暇	為ノ休暇任ス

在滿日本帝國大使館

元ト武券二十九日哈爾濱總領事館ヨリ警務部 銃備付 用トシテ「コルト」式拳銃三挺六彈	葉三〇〇卷・保管転換ヲ受ク	上野部長 三十一日ヨリ込査部長上野中吉ハ妻疾 休 暇 有看護ノ為ノ休暇(三日間)中ニ過 九月二日出勤ス	九月	西角込査 一日百草溝警察署勤務中、西角 着 任 龍雄ハ八月十五日在吉林總領事館 警察署勤務在新京總領事館兼 勤ヲ被命着任ス(第一課勤務)
--	---------------	---	----	---

在滿日本帝國大使館

西川達查	五日	達查西川栄夫ハ八月二十一日附賜
國島警部	昭和三十二年八月二十一日	附人普通第九
家務殿朝	ハ、豫ク以テ家務殿朝許ラセシメテ	部國島吉典ニ男逸郎ハ九月二日奉
	登殿朝ス	
若元部長	二日	達查部長若元缺ニハ頭痛ニ伴ヒ動
病氣休暇	悖眩暈	為ニ休暇自笔ニ於テ靜養ス
小柳部長	二日	達查部長小柳昌信ハ家事整理ノ
休暇旅行	為ノ	哈爾濱省ニ休暇旅行シ五日飯任
	セ	

在滿日本帝國大使館

賜暇飯朝 暇飯朝許可々シ家務同伴書登下

丸田通記生 十日賜暇飯朝中一通記生丸田五百

飯 任 藏ハ單身飯任セリ

川上御長 十日込查御長川上茂昭令石川義

外名警部 補 雄ハ兩名ハ九月九日附警部補任官
補任官ハ茶令多變ノ

丸田通記生 十五日通記生丸田五百藏ハ九月十日

勤 附在天津總領事館警官察果有勤務
ヲ被命出奉任入

在滿日本帝國大使館

伊藤達查 着任	十六日 理警督察署勤務員、達查 伊藤巴西太、八月十日附在吉林總 領事館警督察署勤務員、在新京總 領事館兼勤務、被命着任、 (兼言課勤務)
大江書記 官勤勤	十七日 書記官大江晃、八月十日附 天津支勤、被命出外着任、
小長谷警官 部外言名 勤	十七日 警部小長谷亮作、達查部長杉 山勝義、同佐藤善治、同少柳高信、 八月十日附天津總領事館警督察 署勤務、被命出外着任、



周本达查 着任	十八日有哈爾濱警察署勤務中，达查 周本达查，九月十日时在吉林總領 事館警察署勤務，在新京總領 事館兼勤，被命着任，(第一課勤 務)
藤井达查 外着着任	十九日达查藤井达查，九月五日时达查 畑中富太郎，九月十日时在吉林 總領事館警察署勤務，在新京 總領事館兼勤，被命着任， (藤井結理課 畑中第一課勤務)

在滿日本帝國大使館

考試合格	二十日 込查西川栄夫ハ去ル四月施行ノ
表	外務省警部警部補特別任用試験 願ニ合格ノ榮令ヲ受ク
長谷川警部	二十一日 警部補長谷川健治ハ九月十
部補取朝	五日 部補取朝命令 (内務省警部官講
命令	習所入此ノ旨) 榮令ヲ受ク出榮ス
中島警部	二十日 吉林警部署署勤務中 警部中
着任	島好雄ハ九月十日 付立 新京總領事
	館兼勤ヲ被命 家族同伴着任ス (第一課勤務)

在滿日本帝國大使館

川上 警部	二十三日警部補川上茂昭八月九日
補 警部	附在哈爾濱總領事館警部察果
勤務	勤務ノ被命ニ赴任ス
坂本 警部	二十三日警部補坂本逸次八月九日
補 警部	日附在吉林總領事館警部察果
勤務	勤務在新京總領事館兼勤
被命	被命家族同任又(第十二)
譯 勤務	(譯勤務)
十月	
渡部 部長	一日法務部長渡部西造八月九日
勤	日附在漢口總領事館警部察果

在滿日本帝國大使館

務ヲ命セシ出立赴任ス

川印警部 五日 飯朝中(警察官講習所入所)

補辭令 警部補 川印留任 在上海總領事館警察部(転勤、赴任令通知、接又)

高橋警長 十五日 有々出立用警部署用勤務中、
着任 込查部長 高橋壽 八月五日 附在

吉林總領事館警部署用勤務
左新原總領事館兼勤ヲ被命
着任ス、第二課勤務)



又也々奉統 十五日南京總領事館へ「又」セル一筆
 之南京保 奉統一挺及今摩某五。奉之保管
 管 管 換 換 又

山石元部長 二十三日若元部長外十二名ニ對シ左ノ通昇
 外十二名昇給 給奉令ヲ受ク

八月三十一日附

給月俸五十九圓	外務省通商部長山石元
給月俸五十三圓	外務省通商部長石橋義之助
給月俸五十三圓	外務省通商部長上野平吉
給月俸四十六圓	外務省通商部長上田康一
給月俸四十七圓	外務省通商部長森井定夫
給月俸四十七圓	外務省通商部長西川第夫



	給月俸四十二圓 外務省達查 伊藤巴因太
	給月俸四十六圓 外務省達查 岡本隆次
	給月俸四十五圓 外務省達查 西角龍雄
	給月俸四十四圓 外務省達查 烟中富太郎
	給月俸四十四圓 外務省達查 高橋輝男
	給月俸四十四圓 外務省達查 紅野精
	給月俸四十三圓 外務省達查 高坂光
烟中達查	二十三日 十月二十日 附人 普通 第一三〇四號
家族飯朝	ヲ以テ 家族飯朝 許リテ 受テ 多ク 達查 烟中
	富太郎 妻 及 長女 出 祭 飯朝 入

在滿日本帝國大使館

大久保通記	二十五日大久保通記生外六名ニ對シテ左ニ通
生外六名異級	昇給ノ榮令ヲ受ク
九月三十日附	
給五級俸	外務省通記生 大久保直次郎
給六級俸	外務省警部 中島好雄
給六級俸	外務省警部 國島吉典
給六級俸	外務省警部 松本保彌
給月俸五十五圓	外務省警部補 長谷川健治
給月俸五十五圓	外務省警部補 坂本逸次
給月俸五十五圓	外務省警部補 石川義雄
尾形重忠	二十一日滿洲國主勳ヲ被命スル大使館
官着任	三等書記官尾形昭二ハ本日着任

在滿日本帝國大使館

警務部第三課兼務ヲ命セリタリ。

十一月

末柄部長 六日通化ヨリ賜暇取朝中、込査部

着任 長末柄助次郎ハ十月五日附去、吉

林總領事館警察課勤務ヲ任、新

京總領事館兼勤ヲ被命シ着任ス

(第三課勤務)

西川込査 七日賜暇取朝中、込査西川栄夫ハ

飯任 家族同伴飯任ス

第一面招

十日午店二時ヨリ新京神北斎場ニ

在滿日本帝國大使館

總務執行

於三月廿九日奉典委自長主權ノ下ニ殉
 職外務省警務官五十九勇士ヲ祀ル
 第六回招魂祭ヲ奉行シ花輪供物
 等ト上盛ラレ奉列有百餘名ヲ算シ
 最盛肅禮ニテ三時四十分閉式セリ

服部警視

十日朝鮮總督府道警視服部昇治
 及平北道達也部長小林五郎ノ兩名ハ
 警署事務連絡ノ爲メ大使館警務
 任辭令 御ニ致遣サレ本日ヲ執務セリ

小林部長

五月二十三日附服部警視ハ兼任外
 務省警視 新京左勤 小林部長ハ
 兼任外務省達也部長 新京總領

在滿日本帝國大使館



事館警奉有勤務之命セラル

烟中込查

十八日十一月十三日附入普通第一三二五

家族呼寄

廉ヲ以テ家族呼寄可許可ク受ケタム

達 査烟中高夫即 家族事女五長女到

着ス

上野部長

十八日込查部長上野中吉ハ家族病氣

病身休暇

看護ヲ為引續キ三日間休務シ三日

出勤ス

西角込查

二十三日 込查西角龍雄ハ冥母病氣看

休暇取朝

護卜結婚式ヲ奉ケル為 知里長野縣

在滿日本帝國大使館

（休暇旅行許可マシテ本日申登ス

高橋達香

二十四日 达香高橋輝男ハ実女病氣

休暇取朝

危篤報ニ接シ之レカ看護ニクメ知里

干糸、線ニ休暇取朝許可マシテ本日
申登ス

十二月

高橋达香

五日 休暇取朝中、达香高橋龍雄

取

任ス

高橋达香

十二日 休暇取朝中、达香高橋輝

取

任ス



藤川部長	三月二日向城子分館勤務中、込查却
着任	長藤川農吉、三月十五日付在吉
林總領事館	林總領事館、警察、異同勤務、在吉
京總領事館	京總領事館、兼勤、被命、家族同
伊着任	伊着任、(第一課勤務)
着任	三月三日哈爾濱着任、警察、異同勤務中、込
林總領事館	林總領事館、兼勤、被命、家族同伴
着任	着任、(第一課勤務)
双眼鏡一箇	二十三日双眼鏡一箇、天津總領事館
天津保管	保管、転換、也

在滿日本帝國大使館

相原達查 着任	二十五日牡丹江警察署署勤務中、達查相原國義八十二月十五日附在吉林總領事館警察署勤務在新京總領事館兼勤、被命、單身着任、(第二課勤務)
岡市達查 休暇旅行	二十日、自達查岡市達查、為奉天、休暇旅行、又、三十一日、返任
大久保通記	昭和十二年一月 八日、大久保通記、在外十名、一、年、以上、皆

在滿日本帝國大使館

昭和十二年

外名ニ背 勳者ニ對シ三浦警務部第一課長
勳賞授與 予塔勳賞ヲ授與セリ

中島警部 二十日中島警部ニ對シ左記給與
昇 給 祭令ヲ受ク

十一月三十日附
給五級俸外有警部 中島好雄

芥川理事 二十日芥川理事官外名ニ對シ左記
官外有昇級 祭令ヲ受ク

十一月二十六日附
高等官六等 大使館理事官
賜二級 俸 兼務有警視 芥川長治
高等官七等 賜三等 俸 大使館理事官長 谷川清



高坂達香	二十七日より達香高坂光八屋利奈生ノ 休 暇 為ノ休務ニ引續キ二月一日迄自宅ニ 於テ静養ス
石川登彌補	三月三日迄登彌補石川義雄ハ菅文一死亡 ニ月
休暇取朝	ノ為メ鄭里サ汝成器ニ休暇取朝中 十一月十日一ニ處十八日取任ス
大使館當直規定	五月一日付總務課長ヨリ館内各課宛 大使館當直規定左記通制定ニシテ 青函達アリ
左記	記

在滿日本帝國大使館

在滿大使館當直規程 昭和三年一月六日定

第一 在滿大使館ニ當直自之置ク

第二 當直自ニ專任外務省出立者一名及

雇員又ハ囑託一名ヲ以テ之ニ充ツ

第三 當直自ハ執務時間外（休祭日及之）

ニ於ケル文書日電報電話等ノ接受

及館内ノ取締警戒ニ當ルモノトス

第四 當直自ノ接受シタル郵便物ハ翌日大

使館執務ノ開始ト同時ニ之ヲ開

封者ニ引継クヘシ

大使館南洋有免ノ至急郵便物ヲ

接受シタルトキハ海滯ナク之ヲ宛名

人ニ通報スヘシ

在滿日本帝國大使館

<p>第五 當直員電報ヲ接收シタトキハ譯 帶ナク之ヲ大使館電信課又ハ南 洋省ニ通報スヘシ</p>	<p>第六 當直員ニ接受シタトキハ電話中ニ立 志又ハ重要ナルモノヲ付テハ之ヲ關係 者ニ傳達スヘシ</p>	<p>第七 急ヲ要スル事尙アトキハ譯帶ナク 其事ノ性質ニ從ヒ大使館參事 官 警務部長 大使館總務課長 警務部第一課長 其他關係 官中ノ何レカニ連絡スヘシ</p>	<p>第八 當直員ノ執務時間終了後翌日 執務開始時間ニ至ル</p>
--	--	--	---------------------------------------



翌日休祭日ナレトキハ執務開始時間
ニ該當スル時間ニ交替スヘシ交替日
者ハ午五時ニ至リ申コ交替スヘ
シ

第九省同直中拉也受クテハ郵便初電
報 至急又ハ重要ナル電話及當
直中ニ於テハ重要ナル事項付テハ
マ當直日誌ニ記載シ翌日執
務開始ト共ニ大使館總務課長
及警務部第一課長ニ周覽ニ供
スヘシ

第十當直勤務者ハ翌トシ
勤務ヲ免ストコトヲ得



	<p>附則 本題程人昭和十二年二月九日 之ヲ施行ス</p>
<p>石橋部長</p>	<p>六日達香部長石橋部長之助ハ風邪 海義休暇ノ為ニ休暇缺勤ス</p>
<p>若川理事 官叙位</p>	<p>十日大使館若川長治ハ二月十日附 叙正七位ノ榮命ヲ受ク</p>
<p>藤川部長 休暇旅行</p>	<p>十三日達香部長藤川部長ハ本溪湖 ニ在リ叔父ト家事ヲ行シ合テ為メニ休暇 旅行ニ十四日返任ス</p>

在滿日本帝國大使館

<p>逋查部長 任</p>	<p>十五日逋查西川軍夫 令相軍子義 命、兩者ハ二月十四日附逋查部長任命 、発令ヲ受ク</p>
<p>藤部部長 警部補任</p>	<p>十六日逋查部長、藤川忠吉ハ二月 十四日附警部補任官、発令ヲ受ク</p>
<p>紅野連査 瘡文休暇</p>	<p>十九日逋查紅野精ハ風神及養執ノ 為、休暇缺勤引續キ二十五日迄 七日間自宅ニ於テ靜養也</p>

在滿日本帝國大使館

芥川理書官	十九日大使館理書官芥川長治、康
滿洲國皇十	德元年五月九日附以滿洲國皇
要勳被	帝陛下より勳六位に叙せられたる
勳 共	勳ヲ賜ハル叙勳狀(第參卷參七節)
	ノ贈典セラレタリ
相原省長	二十三日法務部長相原國義ハ二月
賜暇取朝	四日附賜暇取朝許可セシ奉身出
	発ス
芥川理書官	二十六日晨ニ滿洲事變ニ関シ滿功行
栄高名ニ	賞ニ奉令アリ夫、勳章並ニ從軍記章
對ニ勳記	下賜セラレタリ一層、警務部自其ノ以理

在滿日本帝國大使館

從軍記者 訃書傳達	事官以下十四名ニ對シ之ヲ勳記並訃 書ヲ傳達セラレタリ
	三・月
東條警 務部長	一日陸軍中將東條英機ニ三月 一日對警務部長事務囑託ヲ解リ 離任ス
藤江警 務部長	一日陸軍少將藤江一白對左ノ奉令ニ ヨリ本日の警務部長ニ就任ス
任	陸軍少將 藤江 惠輔 駐滿日本帝國大使館警務部長ノ 事務ヲ囑託ス

在滿日本帝國大使館

新前警務 部長挨拶	二日午前十時東條前警務部長ハ大 使館會議室ニ於テ警務部職員一 同ニ對シ告別辭ヲ陳ラレ同日午前 十時三十分藤江新警務部長ハ警 務部ニ初登壇シ上警務部職員一同 ニ對シ新任ノ挨拶並ニ訓授ヲナシタリ
伊藤近衛 病氣休暇	三日込直伊藤近衛ハ西太風邪発熱爲 依務引續キ一日迄同日同自宅ニ於 テ静養ス
自動車配 給	三日警務部用トシテ兼用自動車 三十七年型「ウィック」壹台購入配

在滿日本帝國大使館

	給う受り
自動車	四日 乘用自動車「三四」型 グロー
廃車	「L」型 台 大使館へ返納ス
石川警部	五日 警部補 石川 雄八 風邪ヲ養
補病氣休	熱 為 休 暇 療 養 (二日間) 中 處
暇	× 日本 勤ス
上田部長	八日 法務部長 上田 康一 ハ 昭和十三年
受験上京	度 外務書記生 試験 應試 為 休
	暇 旅行ヲ以テ 出 発 暇 朝ス

在滿日本帝國大使館

芥川理事	十六日大連設理事官芥川長治
官賜暇	二月十五日附賜暇假朝辭可也
級	朝 家務同伴出發
小池警部	二十日里河警部署長警部小池
着	房治三月八日附在吉林總領事
	館警部署勤務在新京總領
	事館署勤務被命家務同伴着
	任(第三課勤務)
小池警部	二十日小池警部外三名、左ノ茶合ヲ受
外三名辭令	ケ陸東憲兵隊司令部ニ於テ執務
	スルコトナリ

在滿日本帝國大使館

	三月三十日附
	大使館警務部外務省警部小池房治 大使館警務部外務省達查岡本隆次 朝鮮總督府警務部 警務省警務部
	右中央警務統制委員會事務之編記 之同會幹事會議班附之命下
西用達查 勳記從軍 記章認書 傳達	二十四日達查西用能雄ニ対スル滿洲 勳記從軍事務變論所行答目ニ付勳記並從軍 記章認書 記章認書日本日本ニ傳達セ レタリ

在滿日本帝國大使館

自動車配	二十六日警務部用トシテ兼用自動車
給	車三七车型 ナフシ上ニシテ壹台購入
	配給ノ受ク
雨宮達彦	二十九日 込查雨宮龍雄ノ家事ノ整理
休暇	取理ノ為メ休務ス
高橋吉電	二十九日 込查高橋輝男ノ家事ノ整理
休暇	取理ノ為メ休務ス
東柳智長	三十日 込查部長東柳助在部ノ腹痛
病氣休暇	痛ノ為メ休務自定ニ於テ二日間静養ニ四月一日出勤ス

在滿日本帝國大使館

自動車 三十一日三二年型ナワレエシ壹台大
寮車 候館へ返納ス

四月

浪 高橋と查二日 込查高橋輝雄ハ三月三十一日附
職 込查部長ヲ被命 今日附 佐輔臣職
ノ 寮令ヲ受ケ本ハ退職セリ

浪 西角込查五日 込查西角剛毅ハ三月三十一日附
職 込查部長ヲ被命 今日附 佐輔臣職
ノ 寮令ヲ受ケ本日退職セリ



岩元部長	五日 込査部長 若元 缺ニハ同ナラ
病氣入院	テリヤシ 病ニ為 満鉄 病院ニ入院ス
相原部長	七日 賜暇 敝朝 休ニ込査部長 相
敝	伍 宗國 義ノ 家族 同伴 敝 伍ス
西川部長	十日 込査部長 西川 栄夫 相原 西
外名精	義 込査ニ 係 井 定夫 台 紅 歸 精ノ 日
勸諭書授	名ハ 三月 三十一日 附 精 勸 諭 書 日 授 進ク
進	奉 令 受ク
長谷部警	十日 警部 補 長 谷 川 健 治 ハ 三月 三十一
部補精	日 附 精 勸 加 俸 三 圓 給 與 ノ 奉 令

在滿日本帝國大使館

勤加俸ヲ受ク

上同部長ノ休暇旅行ヲ以テ既朝中ノ迄查
取 任部長上同席一職任セリ

鈺布直百十四日三念口外果月勤務中ノ迄查取
警務部木介壽八日四日五日附在吉林總領
事館警務課事務勤務在新京總

領事館兼勤ヲ被命ノ家族同伴
四月十四日吉林經由新方ノ二日回
任セリ



小池警部	十五日警部小池房治込查因本陸次
外二名憲兵	朝鮮總督府在道遊覽兼外務省警部
隊事務場託	但服部昇信三名ハ本日付 官電當心
兵隊司令部事務場託	奉令之變ク
若元部長	十七日豫之在病院ニ入院加療中
退院	込查部長若元鉄之病氣全快出勤ス
坂本警部	十九日警部補坂本逸治ハ四月九日
補賜暇	対賜暇取朝許可也リ家族同伴出
暇	朝 奉ス

在滿日本帝國大使館

奉鏡彈ヲ 同島ヲ保 管轉換	二十日ハ型奉鏡彈ニ。奉向島總 領事館ヨリ保管轉換ヲ受ク
百トシテ 奉鏡ヲ吉林 保管轉換	二十日ハ型奉鏡ニ。奉吉林 總領事館ヨリ保管轉換ヲ受ク
天也ハ奉鏡 新京ハ保 管轉換	二十日 新京總領事館ハ「天也」奉鏡 新京保管轉換ニ挺合彈共一三。奉保管 管轉換セリ

在滿日本帝國大使館

長谷川務	二十一日警部補長谷川健治八内務
部補政任	省警部警官溝野隆入所中二處
家務	同律政任不
芥川理事	三十日賜暇政任朝中、理事官芥川
官政任	長治八軍身政任也
五月	
烟中道查	三日左之川、語任、中道查、給、榮令
外八名請	支給、榮令
手當支給	三月三十一日附
四等 (支那語) 外務省道查	烟中道查
四等 (支那語) 外務省道查	石橋義之助

在滿日本帝國大使館

四等 (支那語) 外務省通商局長 東 柳助治郎	五等 (支那語) 外務省通商局長 相原 國義	五等 (支那語) 外務省通商局長 西川 宗夫	五等 (支那語) 外務省通商局長 紅 野 精	三等 (朝鮮語) 外務省通商局長 上野 平吉	二等 (英 語) 外務省通商局長 上田 康一	三等 (露 語) 外務省通商局長 高 橋 壽	執務時間 十日五月 日、六月十日迄執務時間左 内 規 通 定 之 云	出勤 午前八時	退廳 午后四時
-------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------------------	---------	---------

在滿日本帝國大使館

上田部長	工日 達香部長上田康一八五月三日附
敝朝命令	敝朝命令(書記生試験合格者)多ク ノ差令ヲ受ケ出テ下
松田清武	十七日 松田清武河原ヨリ賜暇敝朝中ノ
達香警務	達香清武武干表寸八道河子分界ヨリ
勸務	賜暇敝朝中ノ達香松田一利八五月
被命	寸之白附立吉林總領事館警務案ヲ署
	勸務立新京總領事館兼勸之被
	命タリ
五月	

在滿日本帝國大使館

防室講習	五日新米軍人令館ニ於テ軍主信佳、
寢	下ニ防室ニ関スル講習實施セラルル
警	警部官田名列ニ席ニ講習ヲ受ケタリ
尚	尚夜間西公園ニ於テ之カ実演ヲ試
解	解ニ警部補ニ藤川農吉ハ五月大
補	補賜暇日附賜暇取朝許ラセラレ家務同
做	朝伴書矣ス
小	小池警部
警	ハ日警部小池房指 古者齊藤也即
警	ハ哈爾濱總領事館警部官有勤

在滿日本帝國大使館

<p>務中昭和十年十二月乃至十一年六月 一月二月三月中國共產黨黨員多數 ヲ檢舉シタル功ニ依リ三月三十一日附 小池警部ニ金貳拾五圓 齊藤氏 查ニ金拾圓 賞與シテ 奉令ヲ受テ</p>	<p>高橋警長 八日 逕査部長 高橋 壽 逕査 岡本 外一名 警官 隆治 兩名 ハ 齊々 哈商 領事 館 終日 奉 賞 與</p>	<p>共産黨員 四十名ヲ 檢舉シタル功ニ 依リ 三月三十一日 附 高橋 警部長ニ 金 拾圓 岡本 逕査ニ 金 拾五圓 賞與ス 奉令ヲ受テ</p>
---	---	---

在滿日本帝國大使館

<p>松本警部 九日ヨリ十日迄 三日間警部在在 病氣休暇 保彌ハ腹痛、為休暇自宅ニ於テ 靜養ス</p>	<p>小池警部 十日警部小池身病ハ旅順病院入 休暇旅行 院中ノ二男清ニ病氣看護、為旅 順ニ休暇旅行ニ十三日取任ス</p>	<p>藤井達有 十四日達有ニ藤井達有、今鈴木介五尉 外生名達有、今伊藤巳酉太、今岡中隆治、田名ハ 部長任命 六月十二日附達有部長任命、奉令ヲ 受フ</p>
---	--	--



<p>折川理事官 木下右衛門 記念章佩 用允許</p>	<p>十九日 昭和十一年九月二十一日附マ以テ左記 七名ハ滿洲國皇帝陛下ニテ贈與セテ シテ御前日記念章受領及佩用 方允許セシタリ</p>
<p>高坂達查 痲痺休暇</p>	<p>折川理事官 長谷川理事官 中島警部 岡島警部 長谷川警部補 石川警部補 石橋達查部長</p>
<p>高坂達查 痲痺休暇</p>	<p>十九日ヨリ達查高坂共ハ腹痛ノ為メ 休養ヲ引續キ二十一日迄自宅ニ於テ靜 養二十二日全快セ勤ス</p>

在滿日本帝國大使館

部補	坂本	警	二	五	日	警	部	補	坂	本	意	次	賜	暇
任	部	補	坂	本	意	次	賜	暇	不					

(以上)

在滿日本帝國大使館

諸表、名稱	附表第一	在滿大使館警務部警官名簿
既置累年別表	附表第二	在滿大使館警務部警官不設備累年別表
備付累年別表	附表第三	在滿大使館警務部銃器彈藥
退死七累年別表	附表第四	在滿大使館警務部警官官進
九年事功、依此行賞、賞典	附表第五	在滿大使館警務部昭和六年乃至昭和
累年別表	附表第六	在滿大使館警務部警官賞典
	二	

在滿日本帝國大使館

附表第六 在滿大使館警務部警官名簿賞典

三 國名年別表

附表第七 在滿大使館警務部巡查者精勤

證書授與累年別表

附表第八 在滿大使館警務部警官名簿官語

此予高支給累年別表

附表第九 在滿大使館警務部賜暇收朝累

年別表

附表第十 在滿大使館警務部警官名簿累年

別表

附表第十一 在滿大使館警務部職自表

附表第十二 在滿大使館警務部事務分掌一

覽表



附屬
三
寫
真
類
括
亦
付
(
刊
入
)

在滿日本帝國大使館

附表第一

在滿大使館警務部警官官配員數年別表

年別	區		警務部		警務部補		警務部長		查達		警備	
	警務部	警務部補	警務部	警務部補	警務部	警務部補	警務部	警務部補	警務部	警務部補	警務部	警務部補
昭和七年	一	二			一		三					一
同八年	一	三			二		三					一
同九年	二	四			七		六					一
同十年	二	一			一		五					二
同十一年	二	一			七		二					二
同十二年	二	一			二		四					二
同十三年	二	一			四							六
同十三年	二	一			四							六

備考 一本表ハ創設以來毎年末在勤人員ヲ掲ノ
ニ級朝中ノ多クシテ其間ニ籍ヲ有スル者ヲ含ム

在滿日本帝國大使館

附表第二

在滿大使館警務部警務課設備果年別表

年別	分	自	動	車	上	之	目	警	務	課	設	備	果	年	別	表
昭和七年	一	百														
同八年	一															
同九年	二															
同十年	二															
同十一年	二															
同十二年	二															

備考

本表ハ創設以來毎年未嘗時備付リテ敷リ揚ク

在滿日本帝國大使館

附表第三

在滿大使館警務部銃器彈藥備付具年別表

年別	區分		昭和十年	同十年	同十年	同十年
	式	式				
昭和十年	挺	挺	三挺	五	五	五
	式	式	式	式	式	式
同十年	式	式	式	式	式	式
	式	式	式	式	式	式
同十年	式	式	式	式	式	式
	式	式	式	式	式	式
同十年	式	式	式	式	式	式
	式	式	式	式	式	式

備考 昭和十年以前ハ備付ナシ

在滿日本帝國大使館

附表第四

在滿大使館事務部警務官進退死亡異年別表

年別	區分	病歿	依	賴	免	廢	職	進	退	死	異	年
昭和七年												
同八年				一								
同九年												
同十年												
同十一年			一									
同十二年												
同十三年												
同十四年												
同十五年												
同十六年												
同十七年												
同十八年												
同十九年												
同二十年												
同二十一年												
同二十二年												
同二十三年												
同二十四年												
同二十五年												
同二十六年												
同二十七年												
同二十八年												
同二十九年												
同三十年												

註記 一 本表ハ創設以來毎年其年該當人員ノ揚リ
 二 飯朝中ノ有ニシテ其異年ノ籍ヲ有スル者ノ有リ

在滿日本帝國大使館

在勤者(販朝者ヲ含む)ニシテ行賞セラレタル
 者全部ヲ掲ク
 二行賞区分ニ時賜金ニ区畫ニハ軍ニ賜金ノ
 三ノ行賞ノ負ヲ掲ク
 三旭旦早ト午金トヲ併セ賜金ノ多ク有ル者ノ負
 ハ未書セリ

在滿日本帝國大使館

附表第六二

在滿大使館警務部警務員賞金年別表

年別	區分		同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	計
	警務部	警務部								
昭和三十七年										
同八年										
同九年					一					一
同十年						一				一
同十一年							一			一
同十二年								一		一
同十三年									一	一
計										三

備考一、本表、創設以來、每年、其年、該員、負、揭、

在滿日本帝國大使館

附表第七

在滿大使館業務部沿革精勤證書授與果年

別表

年別	分	人員
昭和七年		八
同八年	一	
同九年		
同十年		
同十一年	一	
同十二年	四	
計	六	

備考 本表の創設以來毎年其年該書圖

人員ヲ掲ク



附表第八

在滿大使館警務部警務官語學手當支給累年別表

年別	區別	計				
		特甲	特乙	一	二	三
昭和七年	支那					
同八年	支那					
同九年	支那					
同十年	支那					
同十一年	支那					
同十二年	支那					
同十三年	支那					

備考 本表ハ創設以來毎年其年該箇人員ノ揚ク

在滿日本帝國大使館

附表第九

在滿大使館警務部賜假返朝課生別表

年別	昭和七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	計
警視				一			
警部							
警部補							
込査				一	一		
計							一
							二
							四
							五
							二
							一

備考 本表ハ創設以來毎年其年該省員ノ負揚



附表第十

在滿大使館警務部警費與年別表

(昭和十五年六月三十日調)

年別	分渡切費	警察官 出張費	勤務費	置長參謀 旅費	律師費 計
昭和元年	六〇〇〇明	六三〇明	五五二明	八三	一三〇一三八三
同十一年	六〇〇〇	一〇九〇	五七六		六六六六
同十二年	六〇〇〇	一〇六〇	二五三		一三〇〇九八三
同十三年	六〇〇〇	七五〇	二一七		三三三五二六九五

在滿日本帝國大使館

附表第十一

在滿大使館警務部組織自表 (昭和六三現在)

第 一 課	第 二 課	第 三 課	警務部長
三浦書記官	松浦少佐	長谷川理事官	
課長	課長	課長	
横山中佐 尾形書記官 兼任	横山中佐 尾形書記官 兼任	兼任	
許屬 警務部 二	許屬 通訳生 一	許屬 警務部 一	
許屬 警務部 二	許屬 通訳生 一	許屬 警務部 一	
許屬 警務部 二	許屬 通訳生 一	許屬 警務部 一	
許屬 警務部 二	許屬 通訳生 一	許屬 警務部 一	
許屬 警務部 二	許屬 通訳生 一	許屬 警務部 一	

總員三五名(高等官八名、別任官二名、込者一大名)

在滿日本帝國大使館

別表第十一

在滿大使館警務部事務分掌一覽表 (昭和二六.三.三〇現在)

課別	分掌	事務	課長	主任	係
第 一 課	一 警務課職員人事	一 警務課職員人事	課長 三 井 書記官	主任 林川 理事官	係
	一 警務課配属及区劃警務課配置	一 警務課配属及区劃警務課配置			
	一 警務課官更、服務及規程	一 警務課官更、服務及規程			
	一 警務課事務監察	一 警務課事務監察			
	一 警務課官更、教育	一 警務課官更、教育			
	一 警務課警備及令狀	一 警務課警備及令狀			
	一 飲器庫庫及警備用備品並設備	一 飲器庫庫及警備用備品並設備			
	一 部内庶務及取締	一 部内庶務及取締			
	一 他課所管之屬下事務	一 他課所管之屬下事務			
	一 兼任警務課官之屬下事務	一 兼任警務課官之屬下事務			
一 文書及送達	一 文書及送達	谷川警務部			
一 警察無線電	一 警察無線電	國島警務部			
一 警察電報	一 警察電報	藤川警務部			
一 警察圖書及資料	一 警察圖書及資料	松田 込查			
		赤藤 込查			
		長谷川 達查			
		西川 部長			
		石橋 部長			
		石川 警務部補			
		松本 警務部			
		畑中 込查			

在滿日本帝國大使館

課別區分		分掌事務		課長在	
警務	警備	檢閱	二	對策	思想
一 書類及送達簿書整理保管ニ関ル件 二 統制調査ニ関ル事項 三 經費ニ関ル事項 四 其他庶務ニ関ル事項 五 業務監督ニ関ル事項	一 治安維持ニ関ル事項 二 救急事情報ニ関ル事項 三 警備ニ関ル事項 四 警備ニ関ル事項 五 防犯ニ関ル事項 六 消防及衛生ニ関ル事項 七 警備ニ関ル事項	一 郵便及電信ノ取扱及郵便物及郵便物取替等 二 通信檢閲取締ニ関ル事項 三 不逞文書ノ取締ニ関ル事項	一 警務統制委員會ニ関ル事項 二 思想對策委員會ニ関ル事項 三 共産思想ニ関ル事項	大 高橋部長 保 相原部長 通 鈴木部長 生 鈴木部長	大 保久 大 保久 大 保久 大 保久
		浦		補部警本坂	
		松		補部警本坂	

在滿日本帝國大使館

		課		防		謀		特		高		朝		鮮							
		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項		一、防謀委員會之事項 二、外國謀報取締之防衛之事項 三、一般外國情報之防衛之事項 四、外國公館之防衛之事項 五、外國公館之防衛之事項 六、外事官之防衛之事項 七、官署及地誌調査之防衛之事項 八、官署之防衛之事項 九、官署之防衛之事項 一〇、官署之防衛之事項	
		課		課		課		課		課		課		課							
		中		島		警		部		上		野		部							
		長		長		長		長		長		長		長							
		小林部長		小林部長		小林部長		小林部長		小林部長		小林部長		小林部長							

本表、他、小池警部及岡本部長、第三課勤務、レ、中央警務
 統制委員會幹事、今調査班、専務、ス

在滿日本帝國大使館

課別	分掌事務	課長及主任	係
第一	一營業警察二團之事項 一危險物取締三團之事項 一交通警察二團之事項 一衛生警察二團之事項		末柄部長
三	一防疫二團之事項 一西片及麻酔劑取締三團之事項	課長 長谷川理書	伊藤部長
課	一火災消防其他災害三團之事項 一風俗警察二團之事項 一警隊全募集二團之事項 一刑事警察及犯罪即快三團之事項		木田警部補 紅野達查

在滿日本帝國大使館

別添十三

写真

- (1) 大使館大舎 一葉
- (2) 新京忠靈塔 一葉
- (3) 歴代大使 四葉
- (4) 歴代警務部長 四葉
- (5) 橋本憲兵隊司令官 一葉
- (6) 殉職者忠靈塔合祀 六葉

在滿日本帝國大使館